

のびゆく介良2

2022 介良・高知市合併50周年記念誌



介良・高知市合併50周年記念事業実行委員会

のびゆく介良宣言

私たちの先人たちは、これまで介良を支え発展を願い、幾多の困難を乗り越え歴史を創ってきました。

そして今、私たちは、人と人の絆を引き裂こうとする新型コロナウイルスという未曾有の感染症と向き合う中で、介良・高知市合併50周年を迎え、記念式典を挙行了しました。

近年、都市開発や情報化、そして少子高齢化が進む中で、介良を取り巻く環境は大きく変貌しつつあります。このような中において私たちは、先人の偉業に学び、改めてその誇りを介良の未来へ伝え、築きあげていかねばなりません。

私たちは、本式典を契機にお互いがさらに手と手を結びあい、介良の歴史、自然、人々の友情と信頼を財産として、水清き、菘の香薫る地域の発展に努め、未来を担う子どもたちに素晴らしい介良を引き継いでいく事を、ここに宣言します。

令和4年5月29日

介良・高知市合併50周年記念事業実行委員会

介良・高知市合併50周年記念式典あいさつ



介良・高知市合併50周年記念事業実行委員会会長
入交 征章

皆様、こんにちは。

壇上の来賓の方々、また会場にお集まりの地元の皆様、本日は日曜日のお寛ぎの時間にも関わらず、この式典に足をお運びいただき、心からお礼を申し上げます。

介良・高知市合併50周年記念式典を開催するにあたり、実行委員会を代表し一言ご挨拶を申し上げます。

この介良は江戸の昔土佐藩の直轄地であり、お城下から東に12kmほど離れた人口はわずか1400人ほどの小さな村でした。介良川を通じてお城下とつながり、物産は舟で介良川・国分川・新堀川を通じて菜園場まで運ばれていたそうです。

明治22年に長岡郡介良村となり、その後80年の歴史を紡ぎ、昭和47年に高知市と合併しています。その時の人口は1319戸4309人です。それから50年。現在は5877戸12668人の住民が暮らしています。

この50年で介良は大きく変わりました。蛍の飛び交っていた小さな農村が一面の住宅地となり、良くも悪くも都市化の50年だったと思います。農村の良さは失われ、住民同士の絆も薄くなっております。介良が変貌していく有様を古くからの住民はさびしく眺めていたと思いますが、新しい住民には別に故郷があり、思いは別の所にあったかもしれません。しかし、ここで多くの子どもたちが生まれ育っています。その子どもたちが成長し、将来この介良を、いや日本を背負っていく人たちにとっては、ここ介良こそが故郷です。

50年の節目に当たり、ただ過去を懐かしむだけでなく、若い住民の皆様たちに介良の良さを再認識していただきたく、そして新たな絆を作って頂くきっかけにしたいとの思いが、この事業の一つの目的です。

地域の氏神・朝峯様の神祭を支える氏子も減り、かつては子どもたちが群がり花面と言われる天狗から逃げ回った「おなばれ」もさびしいものになりつつあります。また、地域の運動会も昔は13地区すべてが参加し、綱引きやリレー・玉入れなどで得点を競い老若男女・老いも若きも大いに楽しんだものですが、今はわずかに7地区の参加で、その存続すら危ないと噂されています。

地域のこうした行事に子どもたちに参加してほしい、若い人たちに関心を持ってほしい。そのきっかけにこの50周年記念事業がなればよいと願っています。

実行委員会はこれから記念誌の作成に取り組みます。今月配布の高知市の広報紙と共に「地区の古い写真を探している」とのチラシが入っています。写真の他にも介良にまつわる話等、お寄せいただければありがたいです。

この50周年記念事業、私は長年居住しているということで会長の任を引き受けましたが、実行委員会は、「介良地区連携協議会」の発案で始まりました。そして事務局の皆さんや運営委員さんの奮闘でここまでまいりました。本当にお疲れ様でした。これからもよろしく申し上げます。

これからの故郷「介良」をより住みよいまち・魅力あるまちにしていくためには、ここにお集まりの皆様をはじめ多くの住民の方々のお力添えが欠かせません。そのことをお願いして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



祝 辞

衆議院議員 中谷 元

介良地区が高知市に合併して50年という節目を迎え、記念誌が発刊されますこと、おめでとうございます。

介良は古代から介良の庄とよばれ、介良富士、朝峯神社、岩屋観音、高天原、源希義の墓などの歴史の跡があり、祭りや公民館活動があり、皆が安全を守り協力して暮らしております。

合併当時、私は中学生でしたが、南国バイパスが高須から後免までの区間は開通したばかりで、せまい県道にバスが走り、土佐電鉄の介良通りから介良富士まで、広く田んぼが見渡せる田園地帯でした。

介良地区の人口が、合併当時は3,857人でしたが、その後、中野団地、横堀団地、宮前団地、潮見台が完成し、平成27年には1万2,742人へと急成長し、更には東部総合運動公園や介良川親水公園、パワーセンターの完成により近代的な田園住宅都市となりました。

介良からは、横山龍夫氏が市長となっており、1978年から1994年まで4期16年務められました。市長は、市役所近くの自宅から歩いて通ったそうですが、いつお会いしても笑顔で挨拶され、多くの市民に愛されました。横山市長は、「市政は、市民のためのものであり、市民全体の意見を聞きながらすすめ、最後の判断は市長の良心にしたがって決定すればよい。」と語っておられ、介良地区は皆様のご尽力で、住みやすく心豊かな街となっております。

これからの介良をどんな街にしていくのか。地元の皆様とともに介良の歴史と環境を守り、子どもたちが伸び伸びと育っていく地域になりますように、努めていきたいと思えます。

最後に、介良・高知市合併50周年記念誌発刊に際し、介良の益々の発展を切に願い、また皆さんの健康とご活躍をお祈り申し上げ、私からの祝辞と致します。



祝 辞

高知市長 岡崎 誠也

この度は、合併50周年という大きな佳節を介良地区の皆さまと迎えらるることに、心からお喜び申し上げます。

合併してからの50年間、介良地区は多くの歴史を刻んでこられました。平成2年(1990年)の潮見台ニュータウンを中心とする潮見台地区の編入等による人口増加や平成10年(1998年)の高知豪雨による大規模災害、その後も大規模な運動施設やショッピング施設の完成など、様々な出来事を重ね、現在の住民の皆さまが健やかに暮らし、歴史と文化あふれる自然豊かな介良地区になっていることと思えます。

現在、新型コロナウイルスなどの影響により、人と人とのつながりが希薄化され、市内全域においても地域活動の中止・縮小が余儀なくされています。

そのような状況下、昨年5月29日にお招きいただいた介良・高知市合併50周年記念式典では、子どもから大人まで世代を超えて交流し、共に手を取り合い事業に取り組まれている姿を拝見させていただき、介良地区の皆さまの共生の育みを感じることができ、嬉しく、また、頼もしくも感じました。

このように、50年間で地域を取り巻く環境は様々に変化して参りましたが、介良地区にお住まいの皆さまが“つながりを大切に思う気持ち”を変わず持ち続けてこられたことが、現在の介良地区の姿を形作っているのだと思えます。

本記念誌につきましても、介良地区の皆さまが先人たちの想いを受け継ぎ、次世代へのバトンをつなぐため、心をつなげて発刊に至ったことと思えます。

50年間の想いの詰まった本記念誌が多くの人に共有され、過去の息吹を感じながら、これからの未来に向かって介良地区が今後益々ご発展されることをお祈りしております。

令和5年2月

目次

のびゆく介良宣言	1	地域の様子	
あいさつ	2	介良のいま（人口等の推移）	36
祝辞	3	介良のまちなみの移り変わり	37
目次	4	介良のいま	38
介良・高知市合併50周年記念式典		地域で活動する人々	40
式典への取組	5	資料	
式典の様子	6	介良ものがたり	44
介良の歴史と施設紹介		古墳時代から続く介良地区	45
介良村から高知市へ	8	介良の民家と街並み	46
介良村・介良地区の地図	9	介良の今と昔	47
介良のおもな施設	10	介良史跡・自然めぐりコース	48
介良の年表	12	源希義公	52
潮見台の歩み	14	朝峯神社と介良富士	54
高知国体と介良の関わり	16	朝峯神社の祭礼・棒打ち	56
園や学校の様子		二期作の介良・介良のイチゴ	57
介良西部保育園	18	介良は人材の宝庫	58
愛善保育園	19	介良のご当地ソング	59
中野保育園	20	介良の未来	
介良小学校	22	介良の未来を創る子どもたち	60
介良潮見台小学校	26	小学6年生「将来の夢」	62
介良中学校	30	参考にした文献等・実行委員会	64
		協賛企業	65
		協賛いただいた方々	83

表紙イラスト／2022年 介良中学校1年 祖川侑以さん・祖川芽以さん



介良・高知市合併50周年記念式典

式典への取組

令和4年（2022年）5月29日（日）午前10時。素晴らしい晴天の下、介良・高知市合併50周年を記念しての記念式典が介良小学校体育館で挙行された。この式典は、令和4年2月1日が合併記念日であるため、当初は記念日直前の同年1月30日（日）に予定をされていた。しかし令和2年から猛威を振るっている新型コロナ感染拡大の波に翻弄され、事業そのものの実施も危ぶまれた中、地域の関係者の知恵と協議の上で、一定コロナの波が落ち着く時期を5月と定め、準備をしてきたものであった。

式典の内容は、前述の実行委員会会長のあいさつ、市長祝辞、来賓祝辞と続き、20周年記念誌の写真を中心に介良地区の今を撮影し、新しく編集したスライド「介良の歴史」を上映。介良の未来を担いゆく世代である介良潮見台小学校和太鼓クラブの勇壮な和太鼓演奏、介良小学校合唱クラブの介良ゆかりの内容の合唱、介良中学校吹奏楽部の「ふるさと」他の演奏が、介良の地域と世代とをつなぐ歴史に彩りを与えてくれた。最後に前述の「のびゆく介良宣言」が高らかに紹介された。

会場にはコロナ禍により人が集まりにくい環境の中で、地域住民、実行委員会メンバー、マスコミ関係者ほか約140人が参加し、歴史の一コマを目に刻んだ。特に子どもたちの合唱や演奏に感動の声が寄せられた。あわせて様々な関係機関や行政職員、地域住民で構成された実行委員会メンバーが、前日の会場設営や、当日の運営にスタッフとして尽力し、式典が無事故で滞りなく終了できたことは、今後の介良の後輩たちへのメッセージとして、地域をつなぐ大いなる示唆となるものであったと信じていきたい。



準備の様子



受付の様子

介良・高知市合併50周年記念式典



開会あいさつをする入交実行委員会会長



祝辞を述べる中谷衆議院議員



祝辞を述べる岡崎高知市長

●介良・高知市合併50周年記念式典●

小学生・中学生の発表・演奏



介良潮見台小学校 和太鼓クラブ



介良小学校 ストロベリーキッズ



介良中学校 吹奏楽部



「のびゆく介良宣言」を行う藤川聡詩 副実行委員長



記念式典実行委員

介良の歴史と施設紹介

介良村から高知市へ

介良地区には多くの遺跡や史跡があり、歴史の古い集落であることがわかる。幕末には長岡郡介良村が存在したことが「旧高旧領取調帳」に記載されている。

1871年、廃藩置県により高知県の管轄となり、1889年、町村制の施行により介良村が単独で自治体を形成することとなる。

1972年（昭和47年）2月1日、廃藩置県から102年続いた介良村の歴史に幕を閉じ、旧介良村は高知市と合併した。介良村という地名がなくなることを惜しむ反面、高知市民になるということに胸を躍らせた住民も多かったのだろう。

前日の1月31日には閉村式が行われ、合併記念碑の除幕式も行われた。

介良村と同様に、この日、旧大津村も高知市と合併を果たした。

このことは当時の新聞にも報じられ、当時の様子を窺い知ることができる。

日本は高度成長期の真っただ中。合併後の20年の間にも、道路の整備や学校の建て替え、公共施設の整備が進み、介良地区の風景がずいぶん変わったことは、合併20周年記念誌を見ると良くわかる。

そして、さらに30年が経ち、2022年（令和4年）介良・高知市合併50周年の節目を迎えた。

時代は平成から令和へと移り、50年前に夢見て空想していた出来事が現実になってきている。そして今、子どもたちが夢見る未来はどんな未来なのだろう。

介良の歴史を語り継ぎながら、古きよきものを守り、いつか起きるであろう災害に備え、これから先の未来へ、介良が発展していけるように、住民が互いに協力し合える、そんな街であり続けてほしいと願う。



合併当日の新聞記事（高知新聞社提供）

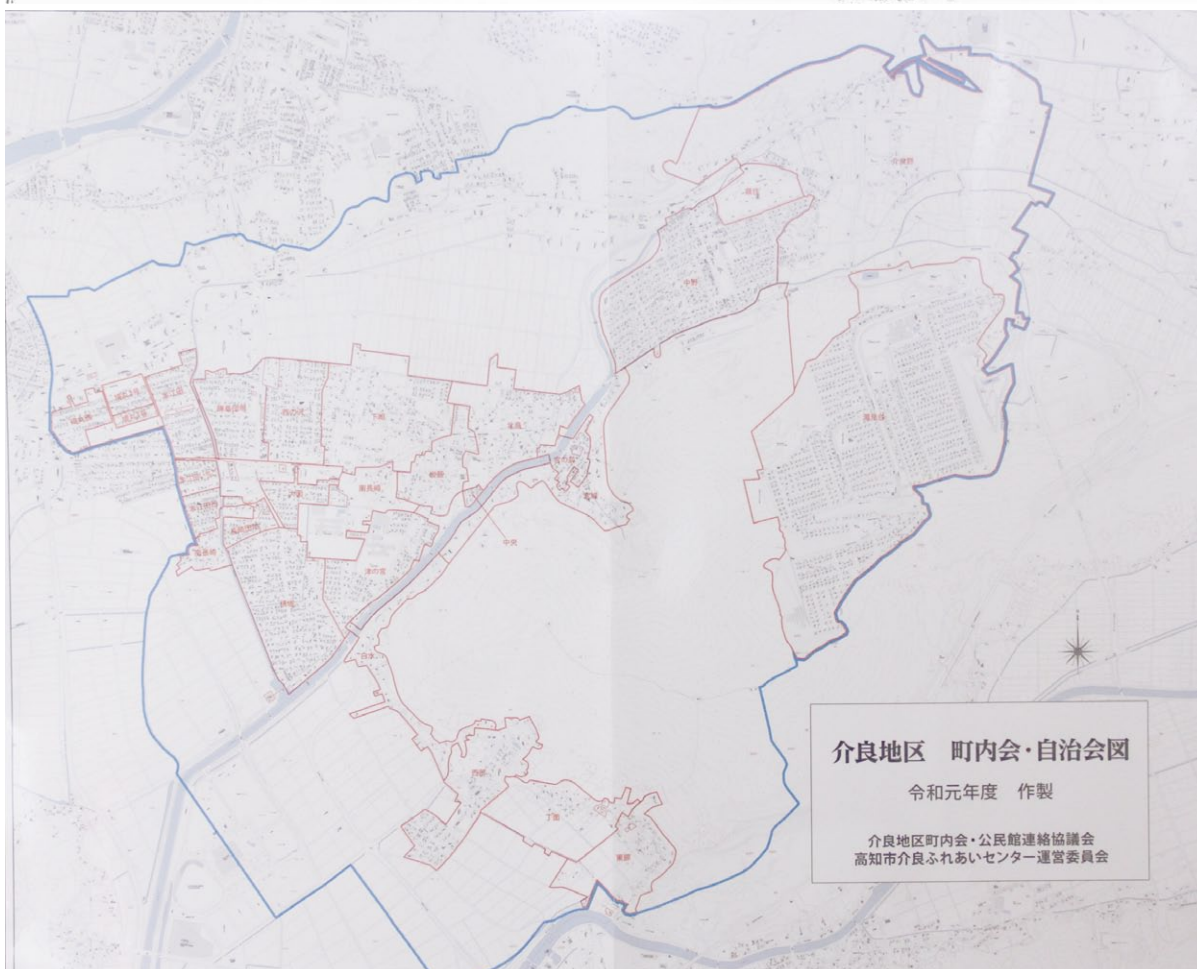


合併記念碑



小富士山と鉢伏山

●介良村の略地図



介良の歴史と施設紹介

介良のおもな施設



介良ふれあいセンター



JA（高知市農業協同組合介良支所）



高知市東消防署東部出張所



消防介良分団屯所



消防介良分団介良野屯所



東部総合運動公園

●介良の歴史と施設紹介●



介良市民会館



児童館



駐在所



高知東郵便局



介良南から南国バイパス付近

介良の歴史と施設紹介

介良の年表

年月（西暦）	できごと	
昭和44年10月 (1969年)	国体相撲一般の部、介良出身選手初の日本一	<p>介良中の生徒4人が、本江田川沿いの田んぼで高さ約10cm、幅約20cm重さ約1.3kg 銀色のヘルメットの形をした物体が浮遊していたのを発見、地面に転がったところを持ち帰り、同級生10人ほどで確認をした。縛ったり、家の中でカギを閉めてもいなくなり、また近くで見つけてはいなくなり、数回繰り返したのち、忽然といなくなった。このことがテレビで紹介され、一躍全国で介良のUFO事件として大騒ぎになった。作家・遠藤周作も現地取材し、著書「僕は好奇心のかたまり」で紹介している。</p>
昭和45年4月 (1970年)	中野団地落成	
昭和47年2月 (1972年)	高知市と合併	
5月	介良中学校新校舎落成式	
9月	介良のUFO事件	
昭和53年2月 (1978年)	介良小学校新校舎落成	
4月	介良西部保育園開設	
昭和55年4月 (1980年)	愛善保育園新築移転	
昭和58年8月 (1983年)	介良地区（現ふれあい）センター設置	
昭和59年5月 (1984年)	潮見台ニュータウン造成完了 東部運動公園野球場起工式	
昭和62年10月 (1987年)	高知東道路「南国市領石～高知市介良間」開通	<p>介良地区の中に新たに潮見台地区が誕生した事もあり、人と人との交流や、文化を掘り起こし、介良地区全体の豊かさや地域文化の向上の基礎となればとの目的で、実質的な『文化祭』を地域の諸団体が協力し開催した。好評を博し、毎年11月に10年間、第10回まで続いたが、一定の成果と共に、2008年をもって終了した。</p>
平成4年6月 (1992年)	潮見台自治会結成	
平成10年4月 (1998年)	介良潮見台小学校開校 中野保育園新園舎落成	
9月	98豪雨災害で、介良の一部が浸水被災	
平成11年4月 (1999年)	パワーセンター高知オープン	
11月	あーとたうん介良が開催	
平成12年9月 (2000年)	高知東郵便局開局	
平成14年3月 (2002年)	介良市民会館改築落成	
10月	高知国体開催民泊等で、事業に地区を上げて協力	
平成17年8月 (2005年)	介良川親水公園完成	
平成22年2月 (2010年)	高知東インター線「国道32号線～高知市介良間」開通	



●介良の歴史と施設紹介●

年月（西暦）	できごと	
平成24年 4月 (2012年)	介良駐在所新築移転	<p>介良小学校・介良潮見台小学校の両青少年育成協議会の協力で、介良小学校校庭と介良中学校校庭に子どもたちの健やかな成長を願い、「介良青少年の木」として桜の木を記念植樹した。その際、長年にわたり高知市の青少年の健全育成活動に尽力された土居勇雄さんと林綾子さんの功績を称え、介良小学校の桜は「土居桜」、介良中学校の桜は「林桜」と命名された。それぞれの桜は、年月を経るごとに幹枝を伸ばし、介良の子どもたちの健やかな成長を温かく見守っている。</p> 
平成27年 1月 (2015年)	介良小と介良中に『介良青少年の木』記念植樹	
平成28年 4月 (2016年)	子育てサロン『親子広場まかしちよき』開設	
令和2年 1月 (2020年)	新型コロナウイルス世界的流行 高知県も行事が中止になるなど影響が出る	
令和3年12月 (2021年)	介良・高知市合併50周年記念事業 実行委員会が立ち上げ	
	<p>※県道243号田村高須線の拡幅 工事</p> <p>介良地区の中央を走る幹線道路である県道243号田村高須線の拡幅工事は、地区において長年の懸案であった。平成12年頃より高知市消防局東部出張所前の拡幅から東に工事が進み、本江田橋、JA 高知市介良支所前、中野団地南と工事は進み、令和4年現在、妹背橋周辺の一部区間を除き、高知市消防局東部出張所～潮見台入口までの区間が、歩道付の片側1車線、バスの行き違いができる道路に拡幅された。狭隘で通行の際交通事故等が心配された幹線道路は大きく様変わりをしている。</p> 	

介良の歴史と施設紹介

潮見台の歩み

潮見台は、1986年から造成が始まり、1989年4月から分譲が始まった鉢伏山と小富士山に囲まれた高知市と南国市にまたがる「大規模造成団地」である。

開発当初は、「潮見台ニュータウン」とよばれていたが、1988年に約3割にあたる南国市が高知市に編入され「高知市潮見台」となり、緑地部分は南国市として残ることとなった。

幹線道路は、1本だけで開発され保育所予定地、大規模商業施設予定地、病院予定地と、入居者の住みやすい場所として介良地区の核となると期待される団地として開設された。

バブル崩壊、高い地価、高金利等の悪条件が重なり、3年後の1992年3月末時点での入居者は80戸止まりであった。

1992年6月に「自治会」が結成され、地価の引き下げ、入居者への返金等の交渉を行い、以後入居者が増え始めた。

しかし高い水道料金や、西側の山の関係による有線テレビ対策費用等で生活費が高額になり、バブル崩壊の余波で当初予定していた保育所、大規模商業施設、病院予定地の開設が頓挫し、住みやすい団地とは言い難い状況であった。

特に3丁目の子どもたちは、介良小学校、介良中学校までの3.5kmを40～50分以上かけて毎日歩いて通学し、学校に着くと疲労困ぱいしていたという。

改善策として、大規模商業施設予定地に小学校を新設することが決まり、1998年4月に「高知市立介良潮見台小学校」が開校した。

開校にあたり、自治会役員・会員は「小学校開校準備会」を立ち上げ、校名募集・校章・校歌・開校記念事業等を積極的に進め、重要な役割を担った。

1996年には、小学校予定地の一部に「サンシャイン・パル」が開店し、隣接地に「四国銀行ATM」が設置された。

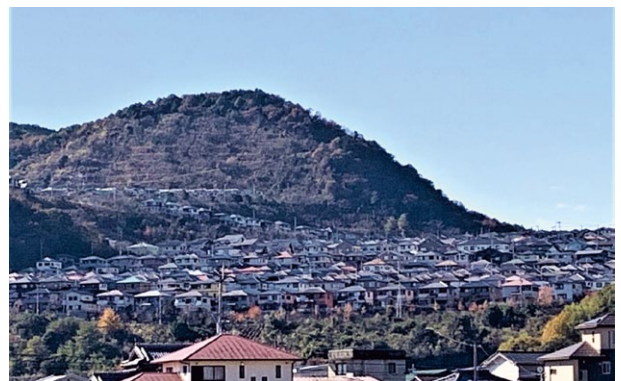
その後、病院予定地の一部に「潮見台診療所」が開院し、規模は縮小されたが、当初予定の施設が建設された。



1992年当時



現在の3丁目からの風景



南国方面から潮見台を望む



介良潮見台小学校

●介良の歴史と施設紹介●



1丁目ハロールーム



2丁目ハロールーム



3丁目ハロールーム



みどりの広場



くろしお君広場



夏祭りの打ち上げ花火



みどりの広場の整備の様子



夏祭りの様子

当初の予定では保育所の建設も考えられていたが、将来的に少子化が見込まれるため新設はせず、老朽化が進んでいた「中野保育園」の改築と、1994年に120名から150名へ定員増加、1997年には150名から180名へ定員増加に加えて0歳児保育の開始で対応することとなった。

1998年豪雨により崩壊した3丁目1700番地上と300番地上の災害復旧工事が1999年には完了した。

これらの整備が進むにつれ、入居者も増え、この頃には世帯数は1200世帯を超え、人口は4千人を超えていた。

自治会で1丁目ハロールームを購入し、さらに用地を高知市から借用し、2丁目ハロールーム・3丁目ハロールームを建設した。

2丁目ハロールームは、2002年高知国体民泊に使用し、その後放送設備を整え、自治会事務所として活用している。

団地内の緑地を活用し、住民たちの憩いの場として、くろしお君広場・みどりの広場・桜坂公園・アスレチック公園等を住民たちの手で整備し、その他の公園・広場も住民たちの手で管理、清掃を行っている。

自治会主体で、夏祭り・打ち上げ花火、敬老会等の行事を行い、これらの設備を有効活用している。

介良の歴史と施設紹介

高知国体と介良との関わり

49年ぶり四国では初の単独開催となった第57回国体体育大会（よさこい高知大会）が主に高知県高知市で開催された。2002年9月21日～24日には夏季大会が開催され、10月26日～10月31日に秋季大会が開催された。大会スローガンは「いしん前進」大会マスコットは「くろしおくん」。

競技数は夏季大会12競技8,592名、秋季大会では28競技18,164名が参加した。

特に秋季大会は宿泊施設の大幅不足から従来の秋季競技から5競技を夏季大会へ移行し、さらに国体史上初めて陸上競技を秋季大会開会式前に開催することで、宿泊客の分散化を図った。しかし、それでも宿泊施設が不足し、2隻のホテルシップや9千人近い選手や監督を民泊などで対応しました。

特に介良地区は、開催会場の近くであり、15の町内会自治会が民泊協力を立ち上げ、ソフトテニスの選手を受け入れました。介良の下組地区では「下組民泊協力会」を立ち上げ、地域住民の理解もあり、36名の住民が「下組民泊協力会」に参加しました。会長入交征章をはじめ民泊家庭8家庭、総務班、調

理班、歓迎美化班に分担し活動しました。新潟県立長岡商業高校のソフトテニスボール部の宿泊が確定すると宿泊当日には歓迎会を開催し、監督・選手などをもてなし、そのうち5家庭で監督・選手が3日間宿泊し、下組地区住民が法被を着て会場で応援したり、調理班がおいしい食事の下組公民館にて全員で談笑しながら食事を囲み、宿泊最終日には監督コーチの寄せ書きをプレゼントされて今も公民館に飾ってあります。

また、東部地区でも同様に民泊受け入れをした。熊本県立菊池高等学校ソフトテニスボール部が4家庭の家に10名が宿泊しました。公民館では伝統文化の「ハシケン」を披露したり、東部地区民が参加して全員で食事を囲みました。当時民泊を受け入れた家庭では宿泊した選手の家がある熊本県に後日招待され、家族ぐるみで交流が深まったというエピソードもあります。

私たち介良住民は、古き時代からおもてなし精神旺盛で、宴会はにぎやかに接する文化が今もなお残っています。



夏季大会：水泳
秋季大会：空手道



秋季大会：軟式野球



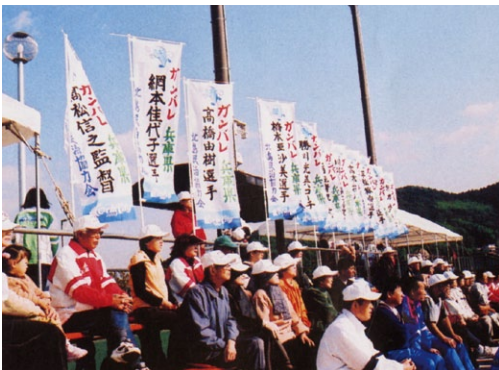
秋季大会：ソフトテニス

●介良の歴史と施設紹介●

【民泊協会】ソフトテニスチームを受け入れ

	介良地区の受け入れ団体	受け入れ県
①	北島民泊協会	兵庫県
②	宮の前民泊協会	三重県
③	宮城民泊協会	福岡県
④	下組民泊協会	新潟県
⑤	長崎公民館民泊協会	神奈川県
⑥	横堀民泊協会	岩手県、栃木県
⑦	白水民泊協会	山形県、沖縄県

	介良地区の受け入れ団体	受け入れ県
⑧	介良西部民泊協会	宮城県
⑨	東部・丁面民泊協会	熊本県
⑩	岩藪・中央民泊協会	秋田県
⑪	鎌島民泊協会	山梨県
⑫	介良中野民泊協会	福島県、愛媛県
⑬	潮見台民泊協会	岐阜県、岡山県



園や学校の様子

介良西部保育園



沿革

- 1938(昭和13)年 季節託児所として、介良村が公会堂へ開設。
- 1943(昭和18)年 新しい公会堂が建ち、託児所も移転、常設となる。戦争により託児所中止。
- 1953(昭和28)年 介良村立愛善保育園が開設され、大部分の子どもが通園する。
- 1973(昭和48)年 高知市の地区改良事業にともない地区内に保育所をという願いのもとに保育所設置運動が起こる。
- 1978(昭和53)年 同和保育所として、高知市介良西部保育園が開設。定員60名
- 1986(昭和61)年 7月より、三ヵ月保育を行うようになった。児童数減少にともない定数45名となる。
- 1996(平成8)年 児童数増加により、定数60名となる。
同和対策事業の適用終了
- 1997(平成9)年 高知市家庭支援推進保育事業開始
- 1998(平成10)年 児童数増加に伴い、定数90名となる。
- 2004(平成16)年 二ヵ月児を受け入れ保育を行うようになった。
- 2005(平成17)年 土曜午後保育が始まる。
- 2008(平成20)年 午後7時までの延長保育が始まる。
- 2009(平成21)年 耐震補強及び改修工事
- 2020(令和2)年 新型コロナウイルス感染症に伴い、休園やクラス閉鎖などの感染対策が取られ現在に至る。
家庭連絡システム導入により、家庭への連絡が可能となる。



こどもの様子

愛善保育園



沿革

- 1953(昭和28)年7月1日 介良村立愛善保育園として設立、園長は村長が兼任。定員95名
- 1960(昭和35)年4月1日 措置児童減少にともない定員60名
- 1967(昭和42)年6月1日 児童増加し一部増築。定員120名
- 1968(昭和43)年2月1日 2歳児保育認可。プレハブ園舎増築
- 1970(昭和45)年2月1日 中野保育園設立。希望者は転園する。
- 1972(昭和47)年2月1日 高知市に合併。高知市愛善保育園と改称。同和対策事業の適用を受け、同和保育所として位置づけられる。
- 1978(昭和53)年10月 介良西部保育園設立。希望者は転園する。
～これまでは同和保育所～
- 1980(昭和55)年4月1日 介良小学校移転の跡地を利用し新築移転。定員120名
- 2000(平成12)年 増築改修工事
- 2018(平成30)年 耐震補強及び改修工事。定員147名
- 2020(令和2)年 新型コロナウイルス感染症に伴い、休園やクラス閉鎖などの感染対策が取られ現在に至る。
家庭連絡システム導入により、家庭への連絡が可能となる。
- 2022(令和4)年 定員138名



元気いっぱい よーいどん!!

お友だちと一緒に色々な遊びを楽しんでいます♪

～こころもからだも

おおきくなあれ!～

園や学校の様子

中野保育園



沿革

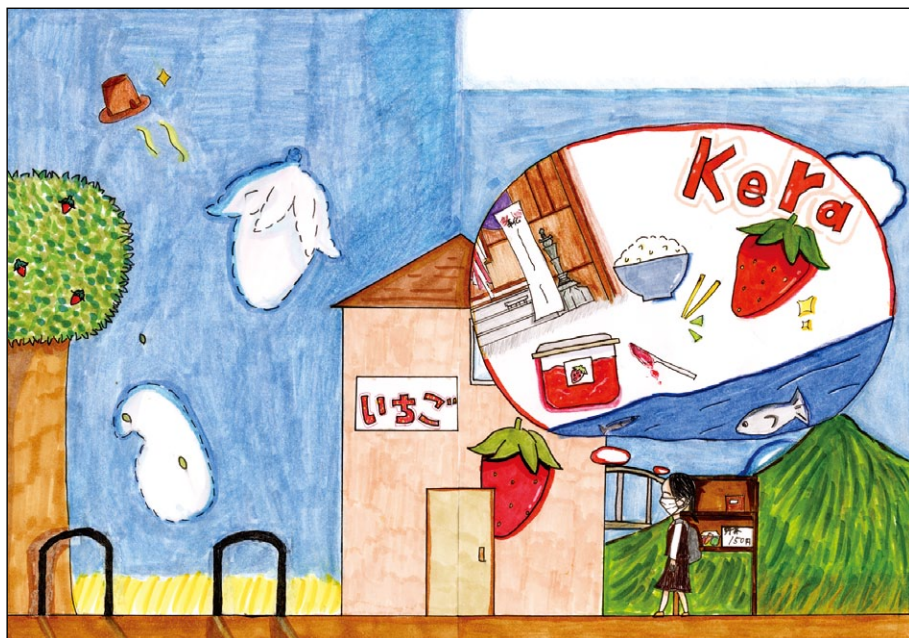
- 1967(昭和42)年 中野地区に住宅団地が造成。それに伴い子供数増加。
1970(昭和45)年2月1日 長岡郡介良村立中野保育園として設立。定員100名。
1971(昭和46)年4月 プレハブの園舎が増築。定員170名に増員された。保護者の願いが実現しプール完成。
1972(昭和47)年2月 高知市合併にともない高知市中野保育園と改称された。
1980(昭和55)年 この頃より団地内の乳幼児が減りはじめる。
1981(昭和56)年 定員減 園児150名
1983(昭和58)年 園児120名
1987(昭和62)年 園児90名
1989(平成元年) 潮見台団地が開発されそこから通園してくる子供が増加。
1994(平成6)年 定員増 園児120名
1995(平成7)年 園児150名
1998(平成10)年 新園舎完成
定員増 園児180名
1歳未満児保育・延長保育始まる。
9月 高知豪雨 床上1センチ～5センチ浸水する。
1999(平成11)年 早出の保育時間が7:30からとなる。
2000(平成12)年 待機児童緩和政策にて定員オーバーでの保育が続く。(194名)
2004(平成16)年 土曜午後保育始まる。
2007(平成19)年 2か月児受け入れ開始に伴い看護師が1日勤務となる。
2020(令和2)年 新型コロナウイルス感染症に伴い、休園やクラス閉鎖などの感染対策が取られ現在に至る。
家庭連絡システムの導入により、家庭への連絡が可能となる。



センダンの木の下で



(2022年 介良中学校1年 梅原侑芳さん)



(2022年 介良中学校1年 久野杜佳さん、横山陽向花さん)

園や学校の様子

介良小学校



● 介良小学校沿革の概要

1877(明治10)	介良尋常小学校創立、外に介良野尋常小学校、谷簡易小学校。	1988(♫ 63)	プール塗り替え、運動場全面土入れ。
1887(♫ 20)	谷尋常小学校は介良尋常小校へ合併。	1993(平成5)1月	高知市合併20周年記念式典挙行。
1888(♫ 21)	組合介良高等小学校創立。長岡郡第二高等小学校と改称。	1998(♫ 10)	介良潮見台小学校分離新設。どんぐりの森完成。
1907(♫ 40)	介良村外村立高等小学校と改称。	2001(♫ 13)	運動場スプリンクラー設置。
1908(♫ 41)	介良、介良野両校合併し、介良尋常小学校となる。高等小学校を併置。	2002(♫ 14)	「学力向上フロンティア・スクール」文部科学省指定 (H14~19)
1941(昭和16)	学制改革により介良村国民学校と改称。	2003(♫ 15)	「こども県展・硬筆の部」優秀学校賞
1947(♫ 22)	学制改革により介良村立介良小学校と改称。学校給食開始。	2006(♫ 18)	高知市教育研究会研究協力校 (H18~20)
1955(♫ 30)	9月学校改築落成、10月落成式挙行。	2009(♫ 21)	金融教育研究指定校 (H21~22)
1969(♫ 44)	介良小学校子ども協同組合、大蔵大臣、日本銀行総裁の表彰を受ける。	2011(♫ 23)	北舎・中舎の耐震工事実施
1972(♫ 47) 2月	高知市と合併、高知市立介良小学校となる。	2013(♫ 25)	小中学校食育・地場産品活用推進事業指定校 (H25~26) 道徳地域連携事業指定校 (H25~27)
1978(♫ 53) 2月	新校舎落成。現在地に移転。	2016(♫ 28)	体育館耐震工事。
1984(♫ 59)	子ども協同組合、大蔵大臣、日本銀行総裁の表彰受賞。	2019(♫ 31)	学力向上のための授業改善研究指定校
1985(♫ 60)	バックネット完成。	2020(令和2)	普通教室への電子黒板設置。
1986(♫ 61)	相撲場(土俵・屋根)完成。	2021(令和3)	高知市授業研究協力校。全校児童へのGIGAタブレット貸与。
1987(♫ 62)	介良ふじ学級新設。高知県国語教育研究大会。		

●むかしのアルバムから



1925(大正14)年 介良小学校の先輩たち



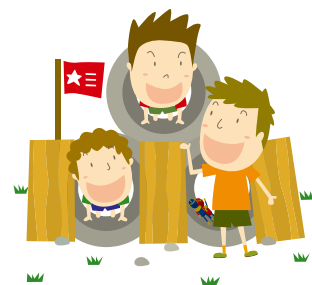
昭和初期 介良小学校の校門



建設中の新校舎の前での運動会



1955(昭和30)年 2階建校舎



● 1978(昭和53)年介良小学校新校舎落成



地鎮祭



落成式



落成のもち投げ

工事概要	校舎(北舎・南舎)鉄筋コンクリート造3階建(一部2階建)5071㎡ 給食室 166㎡、機械棟 2階建 79㎡、役員棟 53㎡
工事経費	総工費 468,070(千円)、用地取得費 755,359(千円)
施設整備	4月:運動場、6月:プール、9月:体育倉庫・遊具、54年2月:体育館

園や学校の様子



合併20周年記念樹
“くろがねもち”



現在地に移転された介良小学校北舎



現在地に移転された介良小学校南舎



よさこい鳴子踊り(運動会にて)

●合併50周年を迎えた2022(令和4)年頃の介良小学校

学級数	通常学級	13
	特別支援学級	5
	合計	18学級
児童数	378名	



介良小学校正門付近の様子

授業で目指したい 「主体的・対話的で深い学び」

興味・関心・見通しを持って取り組み、言語活動を通じて、様々な知識を関連付けながら自分の考えを広げていきます。



「みんなで創ろう！学校行事」

みんなで目標を考えたり、一人一人が役割を分担したりしながら友達と力を合わせて行事に取り組んでいます。本番の参観・応援も力を伸ばすエネルギーになります。



2022年(令和4)運動会



2021(令和3)年 スマイルコンサート



2022(令和4)年3月 卒業式



「介良を学ぼう！介良で学ぼう！農業体験活動」

地域の方々の指導や協働で、介良の特産や農産物の栽培の良さ・大変さについて、様々な体験を通して学んでいます。



いちご摘み・ジャムづくり・さつまいも(2年)



じゃがいも栽培(3年)



大根栽培(4年)



四国アイランド球団「高知ファイティングドッグス」の選手と一緒に「白さぎ米づくり」(5年)

園や学校の様子

介良潮見台小学校



● 介良潮見台小学校沿革の概要

1993(平成5)12月	潮見台地区の遠距離通学解消のために小学校の新設を要請		6回全日本情報教育研究協議会全国大会
1994(レ6)12月	「介良地区に小学校を新設する会」結成	2001(レ13)3月	第2体育倉庫増設
1995(レ7)9月	新校建設予算決議(高知市議会)	2001(レ13)9月	校舎1階南側通路の西出入口へフェンス門及びつなぎフェンスの増設
12月	仮称「高知市立介良第二小学校」基本構想策定	2002(レ14)3月	交通安全看板設置
1997(レ9)2月	小学校建設起工式	2007(レ19)10月	高知市研究協力校研究発表会
6月	仮称「高知市立介良第二小学校」開校準備会結成	2008(レ20)2月	開校10周年記念式典
9月	新校名を「高知市立介良潮見台小学校」に決定	2010(レ22)4月	高知県教育委員会指定「道徳教育重点推進校」(H22～24)
10月	通学区域公布	2013(レ25)4月	高知県教育委員会指定「道徳教育地域連携事業指定校」(H25～H27)
1998(レ10)1月	校歌・校章決定		防災教育推進地域指定事業指定校
2月	新築工事完了	2015(レ27)11月	道徳教育地域連携事業研究発表会
4月	開校式・第1回入学式 開校記念式典	2016(レ28)	防災頭巾を全児童に配布
5月	PTA設立総会	2017(レ29)9月	中庭改修工事完了
1999(レ11)3月	学級園西フェンス設置・学級園外溝整備	2018(レ30)2月	開校20周年記念式典
2000(レ12)4月	正門・東門にカーブミラー設置、第26回全日本教育工学研究協議会全国大会、第14回コンピュータ教育研究協議会全国大会、第	2020(令和2)	普通教室への電子黒板設置 普通教室への空調設備設置
		2021(令和3)	全校児童へのGIGAタブレット貸与 タブレット用インターネット回線整備

● 1998（平成10年）開校式・開校記念式典



● 2018（平成30年）開校20周年記念事業



ドローンで記念撮影



風コンサート

園や学校の様子

● 保護者や地域に支えられ、様々な経験を積む子どもたち



お琴体験



ポン菓子体験



うるめの大名おろし体験



ケーキづくり体験



印章づくり体験



米づくり体験



流しそうめん体験



門松づくり体験



●合併50周年を迎えた2022（令和4）年頃の介良潮見台小学校
「聴く子・語る子・動く子・支える子」



仲間とともに育ちあおう



2022(令和4)年 1年生を迎える会

2022(令和4)年 運動会



2022(令和4)年
縦割り掃除班会

2021(令和3)年 風フェスティバル

2022(令和4)年3月 卒業式

「地域の自然環境から学ぶ！山の学習」



しいたけの菌付け

介良富士での調査活動

花や葉で万華鏡づくり



樹木の分類テスト

採取した植物の観察

マイ箸づくり

園や学校の様子

介良中学校

校舎

高知市立介良中学校は高知市の東端に位置する周囲をのどかな田園風景に囲まれた中規模校である。



沿革

- 昭和22. 5. 1 新学制実施に伴い介良中学校として発足初代校長 岡田 前吉
- 24. 8. 1 2代目校長 近藤 治枝
- 27. 4. 1 3代目校長 大町 良平
- 30. 4. 1 4代目校長 杉村 健吉
- 30. 10. 13 新校舎落成式
- 30. 10. 17 新校舎に移転
- 32. 4. 1 5代目校長 田川 一栄
- 32. 6. 4 家庭科特別教室落成
- 39. 4. 1 6代目校長 小島 鼎一
- 43. 4. 1 7代目校長 北村 壮
- 47. 2. 1 高知市合併に伴い高知市立介良中学校となる
- 47. 3. 1 新築工事一期完成。翌日移転
- 47. 5. 26 新校舎落成式
- 49. 2. 1 運動場周囲フェンス完成
- 49. 9. 8 体育館落成式
- 49. 11. 13 体育館グランドピアノ寄贈を受ける
- 50. 2. 27 校庭便所完成
- 51. 9. 4 増築校舎落成式
- 52. 4. 1 8代目校長 大平 武夫
- 52. 5. 20 塵焼場位置移動
- 53. 3. 22 体育館倉庫・部室・水飲場屋根落成
- 53. 5. 8 北校舎の土地、校地として借地契約となる
- 53. 11. 2 校舎北地埋立完了
- 54. 1. 23 体育館倉庫拡張、管理室完成
- 54. 2. 21 技術室プレハブ完成
- 54. 4. 1 多目的コート用地借地契約
- 54. 5. 7 プール完成
- 55. 6. 26 技術室への渡り廊下完成
- 56. 3. 15 多目的コート(テニス)完成
- 56. 4. 3 プレハブ教室、渡り廊下完成

- 57. 4. 1 9代目校長 武内 数男
- 57. 9. 20 増改築工事完成
- 58. 3. 1 運動場フェンス工事着工
- 58. 8. 7 校舎塀完成
- 58. 11. 26 舗装工事完成
- 59. 4. 1 10代目校長 森木 英人
- 59. 9. 24 防球ネット継ぎ足し
- 60. 9. 25 部室増築
- 60. 10. 11 焼却炉新設
- 61. 4. 1 11代目校長 岡崎 晃一
- 63. 4. 1 12代目校長 福井 朗
- 平成2. 4. 3 南舎床ビニール張替え
- 3. 4. 8 障害児学級受入れのため教室改造
- 4. 4. 1 13代目校長 大南 良樹
- 4. 4. 5 コンピューター室設置
- 5. 8. 南舎西側玄関前舗装
- 7. 3. 西門拡張及び西側防球ネット増設、自転車置場改築、プール塗り換え
- 7. 8. 30 南舎大規模改造完了
- 8. 4. 1 14代目校長 岡本 三夫
- 11. 3. 24 屋内体育館落成
- 11. 4. 1 15代目校長 橋詰 房義
- 12. 3. 28 中舎増築工事完成
- 12. 8. 31 中舎改修工事完成
- 16. 4. 1 16代目校長 佐久間 信行
- 17. 4. 1 生徒指導体制実践モデル校に指定
- 19. 4. 1 17代目校長 筒井 清
- 19. 8. 29 南校舎耐震工事完了
- 20. 4. 1 18代目校長 原池 洋治
- 22. 4. 1 高知県道徳教育重点推進校に指定(H22~H24) 17学級となる
- 23. 4. 1 19代目校長 田所 和仁
- 24. 4. 1 15学級となる
- 25. 4. 1 13学級となる
- 26. 4. 1 12学級となる
- 26. 10. 15 中舎耐震工事終了
- 27. 4. 1 20代目校長 濱口 知恵
- 27. 4. 1 12学級
- 28. 4. 1 12学級
- 28. 7. 8 地域学校協働本部設立(前身は介良地区子どもを守り育てる会)
- 29. 4. 1 11学級
- 30. 4. 1 21代目校長 依岡 誠児
- 30. 4. 1 13学級(通常10学級、特支3学級)
- 31. 4. 1 14学級(通常10学級、特支4学級)
- 令和1. 8. 26 体育館LED照明工事・舞台側バスケゴール取替工事終了
- 1. 10. 31 ブロック塀改修工事(フェンスに交換)終了
- 1. 11. 16 大規模空調工事終了
- 2. 4. 1 14学級(通常10学級、特支4学級)
- 令和3. 4. 1 12学級(通常9学級、特支3学級)
- 3. 4. 11 理科室空調設備工事終了
- 3. 8. 30 美術室空調設備工事終了
- 令和4. 4. 1 22代目校長 山田 洋士
- 4. 4. 1 12学級(通常9学級、特支3学級)

●航空写真



【1986年頃の介良中学校】



【1977年頃の介良中学校】

園や学校の様子

● 授業風景



●体育祭



【選手宣誓】



【綱引き】



【応援団】



【マスト登り】



【タイヤ奪い】



【ムカデ競走】



【背渡りリレー】

園や学校の様子

●文化祭



【2016年度 弁論大会】



【2020年度 合唱の部】



【2021年度 合唱の部】

●部活動の様子



【野球部】



【女子バスケットボール部】



【バドミントン部】



【サッカー部】



【剣道部】



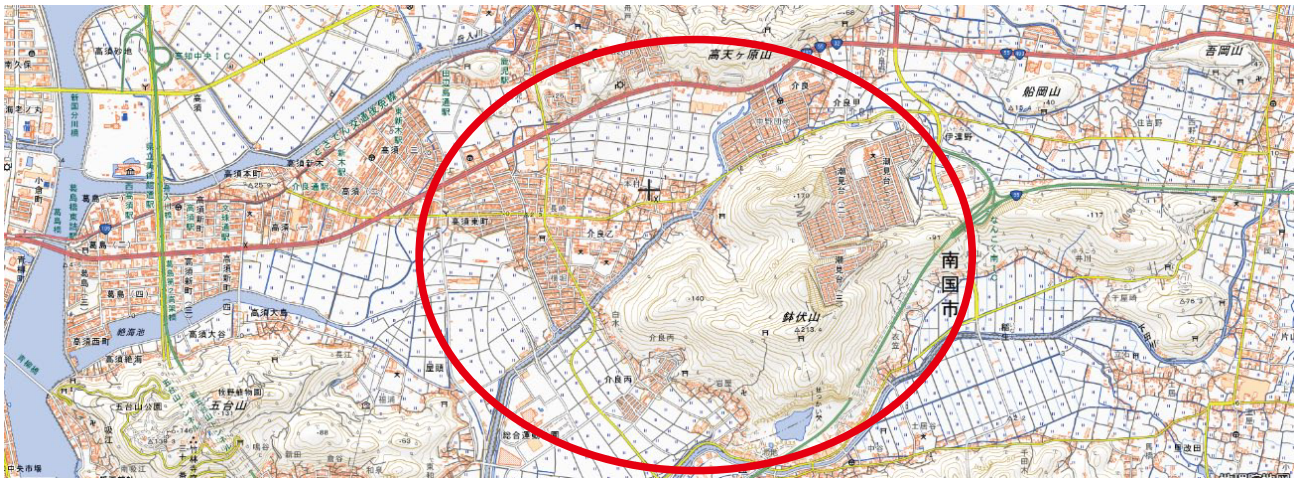
【ハンドボール部】



【吹奏楽部】

地域の様子

介良のいま（人口等の推移）



出典：国土地理院ウェブサイト (<https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)

介良の人口は、高知市合併20周年当時からも団地開発等により人口が増加しましたが、高知市住民基本台帳によると、平成17(2005)年3月1日の5,326世帯、14,059人をピークに減少しはじめ、令和3(2021)年10月1日は5,862世帯、12,717人となっています。

16年間で1,342人減少したことになりますが、逆に世帯数は536世帯増加しています。

図1～2は最近10年間の世帯数と人口の推移を示しています。また、図3は、1世帯当たりの人員を表しています。10年間で0.2ポイント減少していますが、令和2(2020)年国勢調査による高知県の2.11人/世帯を若干上回っています。ただ、内訳をみると潮見台団地は、10年間の減少幅が大きく、介良甲や介良丙は高知県平均を下回っています。

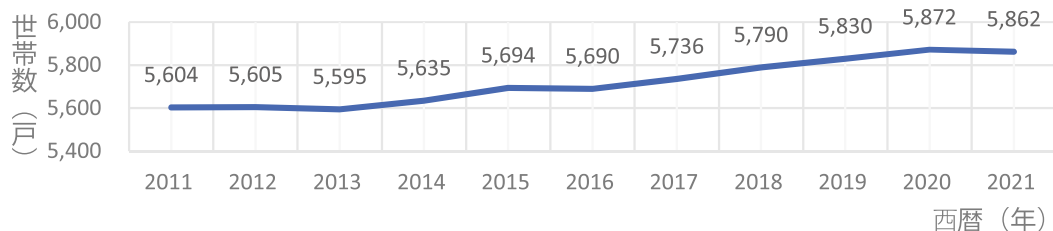


図1：介良地区10年間の世帯数推移

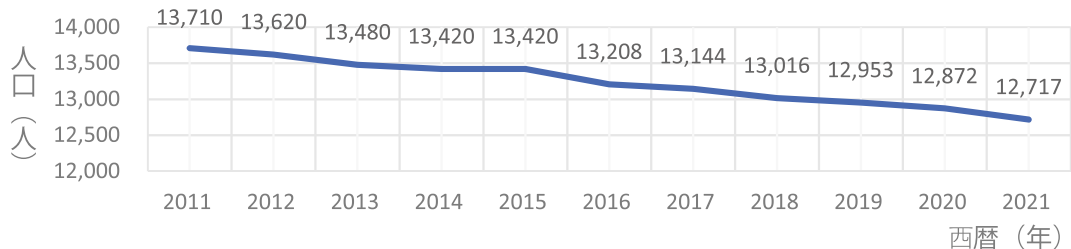


図2：介良地区10年間の人口推移

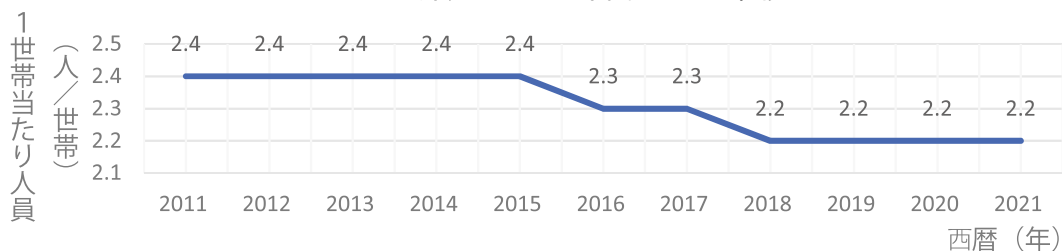


図3：介良地区10年間の1世帯あたり人員

介良のまちなみの移り変わり (②～④昭和51(1976)年⇒令和4(2022)年)



①



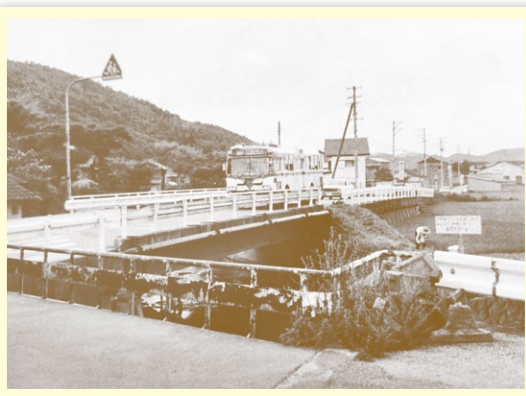
介良川親水公園平成17年8月完成



②



介良乙県道田村高須線拡幅



③



妹背橋平成13年3月竣工



④



介良中野団地中心街橋歩道設置

※「昭和五十一年を歩く・高知市東部」(平成二十五年八月一日発行)武吉孝夫写真集より

介良のいま～地域のにぎわいとくずな～



防災炊き出し訓練



防災避難訓練



介良よさこい子ども踊り子隊



朝峯神社おなばれ



介良地区民運動会





介良親水公園
ふれあいまつり



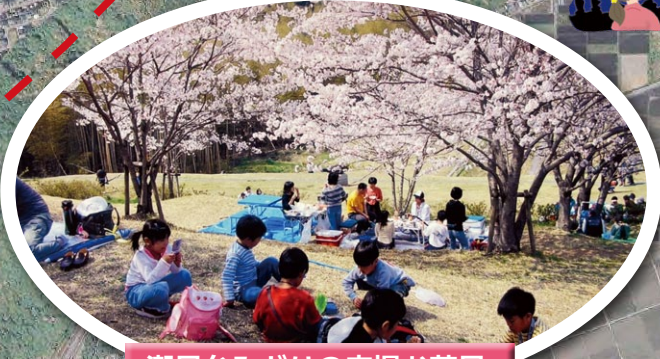
介良潮見台小和太鼓クラブ



介良中吹奏楽部



潮見台団地花火大会



潮見台みどりの広場お花見



介良潮見台ふれあい運動会



地域の様子

地域で活動する人々

介良ふれあいセンター運営委員会

会長 野中 日出夫

◎介良地区の地域コミュニティや防災拠点の役割を担うふれあいセンターに、あらゆる世代の地域住民が気軽に集い、相互の親睦が図れるよう、住民自らがルールや活用方針を決め運営を行っている。



介良地区連携協議会

会長 岩井 朗

◎令和元年に設立。各団体と共に住民の支えあいや情報共有を通して地域の課題解決を図り、子どもや高齢者の笑顔あふれる介良を目指している。行事カレンダー作成や中学校のあいさつ活動。50周年記念事業でも事務局を担う。



介良まちづくりの会

代表 仲本 英生

◎地区のコミュニティ計画推進市民会議として平成6年に設立し、快適で安全な心ふれあう地域づくりを目指して、豊かな自然と生活が調和するまちから、介良を愛し介良らしいまちづくりを目指して改名された。



介良地区社会福祉協議会

会長 岩井 朗

◎合併直後に設立。介良地区内の社会福祉事業関係者や社会福祉に関心を持つ方々と協力して住民の福祉の増進を図るため、様々な事業に取り組んでいる。赤い羽根共同募金の推進や高齢者等各種団体への支援を行っている。



介良地区自治会公民館連絡協議会

会長 野中 日出夫

◎介良村当時に発足。地域の安全安心の保持や環境整備など、多くの課題解決のために住民が知恵を出し合い、その役割を果たしてきた。現在の主な取り組みとして年2回の地区一斉清掃は多くの住民の参加で運営している。



介良地区民生委員児童委員協議会

会長 山本 博愛

◎合併直後に発足、各民生委員・児童委員が地域の高齢者や子どもたちの見守りや住民の健康面、生活面の不安や心配等の相談を受け、その課題が適切な支援が受けられるよう行政や専門機関との橋渡しの役割を担っている。



介良地区人権啓発推進委員会

委員長 楠本 美津子

◎地区住民の人権意識を高め、住民自らが皆の人権を守るまちづくりを推進していくために保育園・学校・市民会館などの関係機関と共に人権学習を実施するとともに、人権週間中の人権旗の設置など、啓発活動に努めている。



介良地区補導委員会

地区長 吉川 清美

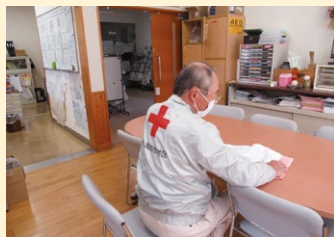
◎市教育委員会より委嘱を受け中学校、市少年補導センター、市内の中学校区ごとにおかれた地区補導委員と連携を図り、青少年の非行防止のため、夜間の見回り活動や、各種研修会等を行っている。



日本赤十字社高知県支部介良分区

分区長 竹内 直志

◎日赤の理念は、「苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」事であり、全世界で活動している。介良では、慈善事業のため、毎年の募金活動や奉仕団活動を行い、社会福祉や人道活動を支えている。



ヘルスマイト

会長 濱渦 祥子

◎私達は食生活改善推進委員として、「私達の健康は私たちの手で」をスローガンに食を通じた健康づくり活動を進めるボランティアである。朝ごはんの大切さや、高齢者の食事、野菜料理の普及など、それぞれのテーマの料理講習会を地域で開催している。



高知市介良乙・丙土地改良区

理事長 田中 孝親

◎介良地区（乙地区・丙地区）の農道水路の維持管理を行う知事の認可を受けた農家の人たちの組織である。農作業に向けて冬と夏に農道、生活水路を清掃し、地域資源を守っている。



高知市老人クラブ介良ブロック

潮見台睦会	会長	船越	みは子
中野寿会	会長	川北	隆男
横堀寿会	会長	秋山	修一郎
第三寿会	会長	竹村	次郎

◎高齢化社会にあって、高齢者の親睦と生きがいづくりのため、地域に根ざした取り組みを進めている。いきいき百歳体操などの健康増進活動や花いっぱい運動、研修活動や児童の登下校時の見守り活動などがある。



介良よさこい踊り実行委員会

会長 野中 日出夫

◎平成18年（2006年）発足。介良小中・介良潮見台小学校の子ども達に故郷の良さを培う目的で「よさこい祭り」に介良子ども踊り子隊として参加。青少年育成協議会を始め地域の皆さんと共に毎年はじける笑顔の思い出を創っている。



地域の様子

介良体育会

会長 鍋島 康祐

◎スポーツ活動を通じて介良住民の健康増進と親睦を通して、明るく住みよい介良づくりに寄与してきた。主な活動として、地区運動会やソフトボール大会、駅伝等は地域住民の交流の場となっている。



介良潮見台体育会

会長 澤本 彰仁

◎スポーツ活動を通じて地域住民の健康増進と親睦のため、各スポーツ団体（現在10団体）が体育館や運動場で汗を流し、運動会や夏祭りの出店、各種の大会等を運営している。コロナ禍や少子高齢化が課題である。



高知市消防団介良分団

分団長 横山 純也

◎高知市の非常備の消防機関で、分団員は別の職業を持ちながら、災害時に現場に駆けつける。『自らの地域は自らが守る』という精神に基づき、介良地区の消防防災活動を行っている。



高知市消防団介良分団後援会

会長 中島 正根

◎『自らの地域は自らが守る』という精神に基づき、日夜、消防防災活動を行う分団員を物心両面から後援している地域の自治会を中心とする組織である。



介良小学校区防災連合部会

会長 横山 成郎

◎介良小学校区の地区内や地域間等での積極的な協力体制を築くとともに、自主的な防災活動を行うことを目的とした団体である。避難訓練や防災学習等を毎年継続して実施することで、日頃からの備えを確認している。



介良潮見台小学校区防災連合会

会長 利岡 綾子

◎今後予想される南海トラフ地震により、建物の倒壊、道路の破損等の災害に対応する為、身を守るのに必要な防災学習や避難訓練を実施して、防災意識を向上させ、災害発生時に生き抜く為の術を身に付ける活動を行う。



消防局による救命処置訓練

介良小学校区青少年育成協議会

会長 横山 成郎

◎介良の子どもたちと校外活動等を通して青少年の健全育成を図る取り組みを行っている。親子ディキャンプや親子木工教室等の様々な行事や野外活動、あいさつ運動や非行防止の活動も実施している。



介良潮見台小学校区青少年育成協議会

会長 池内 孝光

◎地域の子どものための校外活動等を通して青少年の健全育成を図る事を目的としている。スポーツやレクリエーション等の様々な行事や野外活動、あいさつ運動や非行防止の活動も実施している。



介良小学校区交通安全会議

会長 前田 修一

◎高知市交通安全指導員として、市長より委嘱を受け、介良小学校区内の交通安全活動の中心的実践者として、地域社会に奉仕することを目的に設置。地域での交通安全の街頭指導を主な活動としている。



介良潮見台小学校区交通安全会議

会長 藤田 敏彦

◎交通指導員と交通安全母の会で構成され、地域の子どもたちや高齢者などの交通安全誘導に努めている。主な活動は、早朝街頭指導、夜間の自転車街頭指導等を通して、交通事故のない地域を目指している。



介良中学校PTA

会長 福井 清

◎介良中学校 PTA は学校行事である9月の体育祭、10月の文化祭、11月のPTA 食堂などが主な活動である。あいさつ運動や生徒の見守り活動など様々な活動を通して、健全な子供の育成に協力している。



PTA食堂の様子

介良小学校PTA

会長 佐藤 誠

◎児童育成部・文化部・事業部・児童あんぜん部の4部で活動し、デイキャンプやPTA 食堂、交通安全指導などを行っている。文化部発行の広報誌「Step」は2019市P連広報誌コンテストで「最優秀賞」を受賞した。



介良潮見台小学校PCTA

会長 大野 聡

◎PCTA(ピクタ)とは、P(保護者)、C(子ども)、T(教職員)が協力し合って介良潮見台小学校の教育活動を高めるための団体である。「執行部」を中心に、「事業・育成部」「文化・厚生部」「地区部」それぞれが介良潮見台小学校の子どもたちのために、頑張っ



父ちゃんズクラブ

会長 島村 信一

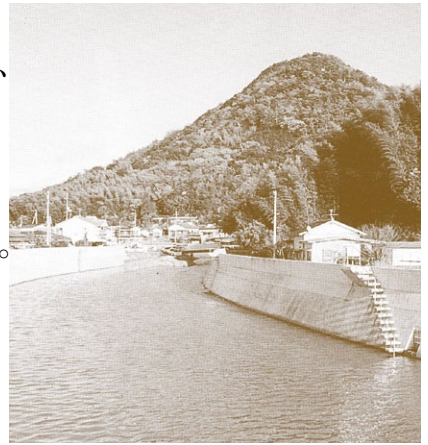
◎介良潮見台小学校に通う子どもたちの父親有志の団体で、子どもたちのために『ミニ門松づくり』『サイクリング』『流しそうめん』などの独自企画イベントの開催や学校行事のお手伝い等の活動をしている。



資料

介良ものがたり

紀貫之が土佐を離れたのは、1058年前のことである。土佐日記の“鹿児島への送別”のところに、磯におりて・この海辺でとか、潮が満ちてなどと書かれていることから当時の鹿児島は海に突き出ている岬であったことがわかる。このことは1000年以前の介良のおよその状態を察知させる。田辺島・葛島・鎌島・大島（五台山）など島のつく地名は、古浦戸湾の広さを語っている。湾内三崎の一つの“津の崎”は、白水日陰山の西の端であると考えられる。現在行われている介良川改修工事で掘り上げられている土砂も昔の姿を見せている。古浦戸湾に、物部川の分流が介良を貫流していたとのことであるが、そう聞けば、水流で円くなったまなごが畠土の上に多いことに気がつく。



約800年前昔の源希義配流の頃は既に陸となり、横山氏隆盛の400年前は、昭和初頭の状態とほとんど同様であったことが長宗我部地検帳で知られる。

●介良川の河道の変遷（五台山誌より転載）

介良川の河道は、明治維新の頃に比べて大きく変わっている。今でも介良川は海上交通路の一つでもあるが、陸上交通が発達していなかった明治維新までは非常に重要であった。それで介良川は東崎に流れ出るこりなくカンノウテより西に折れて屋頭に出て今の掘り込みに沿って大島、絶海に出て国分川に流れていた。そのため艫の響きや舟子の調子をとる声は、長江、屋頭の里に一つの音楽譜を奏でるようであった。ただし朝早くからは介良の肥とり船や塵とり船が音を響かせながら又、舟子は大きい声をはたて面白おかしく上り下りしていった。

屋頭村三百石を扶持としてもらっていた高畑家は、この朝早くから川を上下する肥とり船塵とり船がやかましくて寝られず、又朝もやにのって臭気も漂い、当時飛ぶ鳥をも落とす権勢をもっていた庄屋に命じ、布令を出して介良川の河道変遷を執行した。そして現在のように介良川はカンノウテより南に折れて下田川と合するようになった。（上記のような伝承がある）



明治初期の介良川の河道(想定図)



※注釈(1)：こりなく＝滞りなく。カンノウテ＝観音手。岩屋観音の方向の意。：記念誌部会

※注釈(2)：屋頭の東を南流して下田川に入る介良川は、かつては五台山の北側山裾を西行して五台山北西麓の絶海で浦戸湾に出ていたが、当村庄屋が水路を変更したものである。：高知県の地名（日本歴史地名大系40）平凡社より

古墳時代から続く介良地区

介良地区は介良本村から、東方の南国市立香長中学校東側まで遺跡群が連なり、丘陵上には古墳群が展開する環境にある。発掘調査が行われた介良遺跡は介良川沿いにあり、検出遺構は溝跡や流路跡が中心である。

まず古墳時代では、大阪府南部産とみられる初期の須恵器が複数出土している。半島から導入して間もない時期の須恵器が搬入される遺跡は県内でも限られている。須恵器は古墳後期まで、杯・椀・甕・甗・壺・高杯・埴瓶と多彩な器種が出土している。その後も飛鳥時代、奈良時代、平安時代初期と連続的に土器類が出土している。その中で須恵器捏鉢は、神田ムク入道で述べた通り県内で希少な器種である。遺構では、掘立柱建物跡一棟が検出され、梁間二間、桁行は奈良時代前～中期の遺跡に切られるが二間分が残っていた。

当地区の字本村には、神奈備である小富士山（介良富士ともいう）の麓に、式内社である朝峯神社が鎮座する。「倭名類聚鈔」によれば、「氣良郷」は長岡郡に属し、現在の五台山、池、仁井田、種崎を含むとされるが、浦戸東岸のほぼ全域に及ぶ郷域の中での「けら」の地名は、当地が「氣良郷」の中核であったことを示唆する。当地を見下ろす山上にある高間原古墳群は本市域屈指の規模で、古墳時代後期のほぼ全期にわたって営まれており、介良遺跡の発掘調査成果と併せて「氣良郷」成立前の当地での人々の活動を示している。

2.2km東方の南国市域にある西野々遺跡では、古墳時代後期～古代後期の遺構・遺物が広範囲に出土しており、これらの集落と浦戸湾方面の往来を考えた場合、介良遺跡付近に船着場があったと考えられる。後にも触れるが、当遺跡のように連綿と継続する遺跡は水陸交通の要地である場合が多く、そのような当地の特性は文献にある「介良荘」にも引き継がれ、平安時代から鎌倉時代に源氏との関連を強くしたことの一因となった可能性がある。

（出展「遺跡が語る高知市の歩み 高知市考古編」96・97pより）



古浦戸湾に臨んでいた介良地区(東より)



介良遺跡全景（北側から）



介良遺跡は現在介良川親水公園となり地域住民の憩いの場として親しまれている（南側から）

介良遺跡から出土した土師器、須恵器など

資料

介良の民家と街並み

●白水に残る明治時代建築の民家

介良川にかかる白水橋を渡ると、山裾に沿って古い民家の町並みが続いている。土蔵、稲屋、居室、主屋、離れ、茶室、平次門、長屋門、かわ屋、築地塀など明治期の建物が残されていて、重厚な美しさと歴史を感じさせてくれる。

高知市内でもめったに見られない町並みである。



令和2年5月22日付高知新聞は白水地区を取り上げ以下のように記した。「この地区の伝統的建築群は、かつて豪農たちの屋敷だった。現在では老朽化が進み、人の気配を感じない家屋も少なくない。少し切ないがこの風景も、今後移ろいゆくものだろう」（鍋島高明著「介良のえらいて」より
2022年10月撮影

介良の昔と今

昔



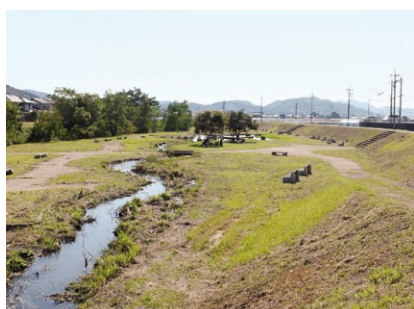
県住と中野団地
5区付近



白水橋南側付近



白水橋



介良川親水公園



県道243号線 中屋バス停付近



本江田橋

今



介良

史跡・自然めぐりコース

介良の山には、
史跡がいっぱい
残ってるんだヨ !!



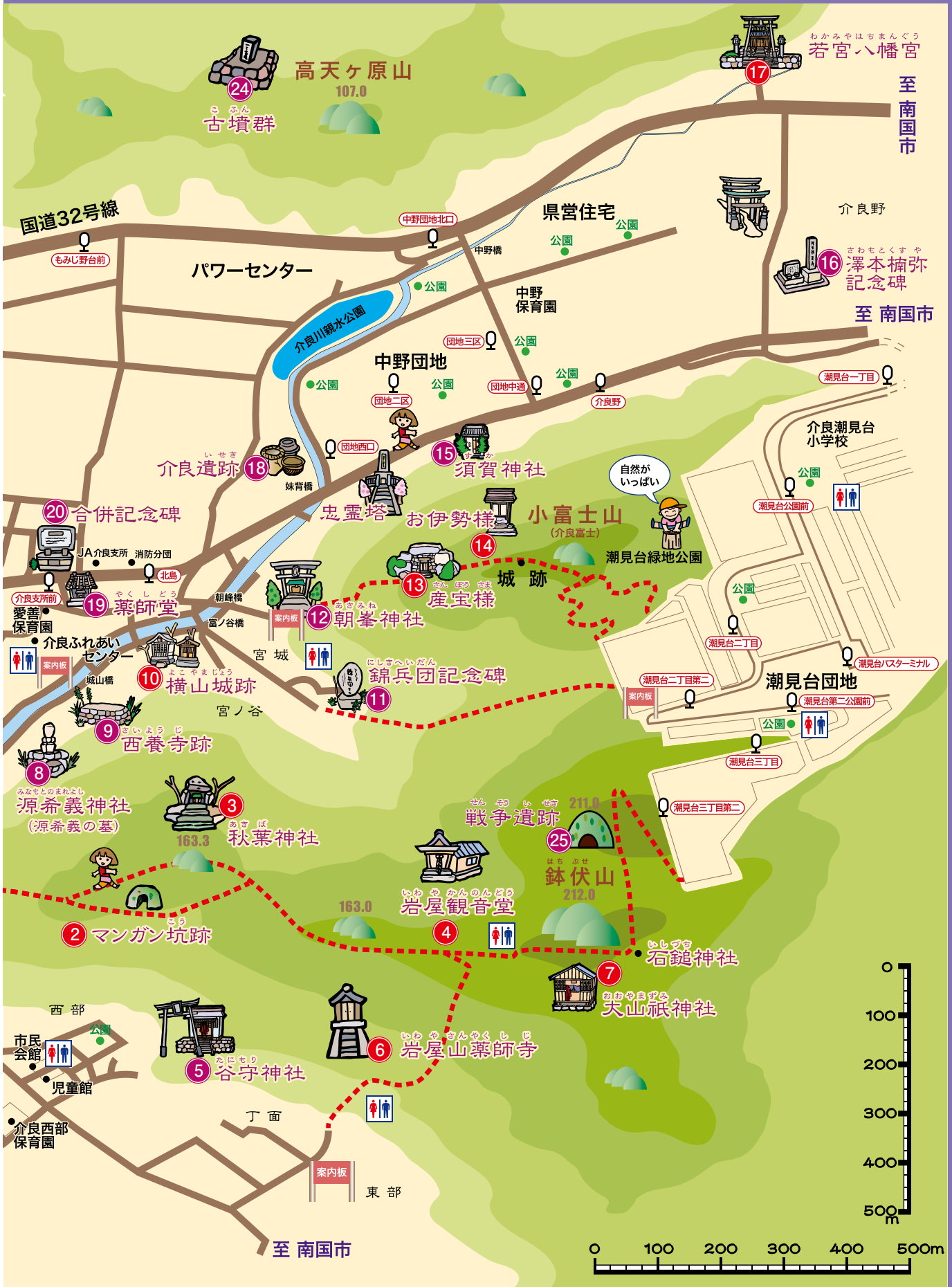
凡例

- 公園
- ハイキングコース
- 案内板 案内板
- 説明板設置史跡
- 説明板未設置史跡

データ提供 / カリノ美工

(平成14年設置)
(令和3年改修)





製作 / 介良まちづくりの会・高知市



介良の史跡・自然めぐり

①実盛様

祭神は武蔵の国の武将、齊藤別当実盛。平宗盛に属して源義仲と戦って死んだ。実盛の死と稲の害虫とのかかわりは各地の伝説に見られる。隣の塚は虫送り塚。

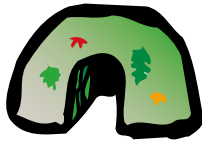


●虫送り塚

虫送りは、害虫駆除、豊作祈願の行事で、鉦、太鼓を打ち、ほら貝を吹くなどして、あぜ道をねり歩いた。子どもも「サイトコベツウ、サーネモリ、イーネノムシャ、ヒシャゲタ」と連呼してついでいき、村境(旧介良村と五台山村の境)で川に虫の霊を流した。

②マンガン坑跡

マンガンは、鉄や銅などの合金に用いる金属元素。掘った鉱石は白水橋登山口まで木馬(木製のそり)でおろし、白水橋元から舟で積んで運んでいた。昭和初期には閉山している。



③秋葉神社

祭神は、火の災いから人を守る「かぐつちの神」。通称、ひびせき様。静岡県の秋葉神社より勧請(神仏の分霊を請じ迎えてまつる)された。



④岩屋観音像

本尊は、石仏十一面観世音菩薩。大慈大悲で人々を救う仏様。



⑤谷守神社

明治15年の調査で新たに社格を定められ村社となったが、明治5年頃にはすでに造られていたようである。祭神には朝峯神社の祭神「このはなさくや姫」の「妹姫」が祭られているといわれています。



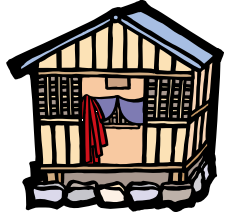
⑥岩屋山薬師寺

真言宗豊山派で、ご本尊は厄除薬師如来坐像である。危難よけ薬師如来といわれ近來の信仰を得ていて、毎年二月十一日が大祭である。また曼荼羅八十八ヶ所の五十九番とし、巡拜されている。



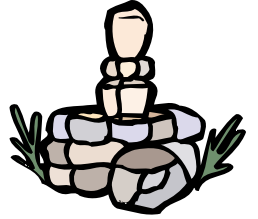
⑦大山祇神社

祭神は、山をつかさどる「おおやまづみの神」。通称、山の神様。瀬戸内海、大三島の大山祇神社より勧請(神仏の分霊を請じ迎えてまつる)。朝峯神社の祭神「このはなさくや姫」の父神である。



⑧源希義神社(源希義の墓)

源希義は、源頼朝の弟で平治の乱(1159)の後土佐に配流となった。治承4年(1180)伊豆で頼朝が挙兵すると、これに呼応することを恐れた平氏が家臣平田太郎俊遠、蓮池権頭家綱等に命じ、寿永元年(1182)9月25日に長岡村年越(南国市折坂山)で殺害された。当年25歳。希義の亡骸はそのまま野ざらしになっていたが、介良の僧琳猷が哀れんで遺骨を拾い、介良庄垣田郷に葬った。神社は西養寺の廃寺後に建立されたと言われている。



⑨西養寺跡

源頼朝によって天下平定された後、希義を葬った僧琳猷が、鎌倉幕府から寺領を与えられ、文治3年(1187)源希義の墓の上に建立した真言宗の寺院。その後、衰退・荒廃し、山内家4代藩主豊昌により補修が行われたが、正徳3年(1713)焼失の後、明治維新後廃寺となった。現在は当時の石垣の一部が残っている。



⑩横山城址

天文の頃(戦国時代)横山氏が代々城主をついで、介良庄に勢力をしめしていたことから横山城と言われている。また、花熊城、介良城とも呼ばれる。城址に城八幡。左が横山神社。



⑪錦兵団記念碑

太平洋戦争末期、本土決戦に備え当地防衛のために配属された錦兵団(第十一師団)の司令部跡である。記念碑は第十一師団長陸軍中将大野広一書。



⑫朝峯神社

旧介良本村・岩屋・白水地区の産土神で土地の守護神である。正殿に「このはなさくや姫」、相殿に「あまつひこほのににぎの命」大山祇神を合祀する。安産と酒の神として、人々の崇敬が厚く、多くの伝承も残っている。毎年7月10日に夏祭りが、10月の第3日曜日に秋の大祭が行われる。



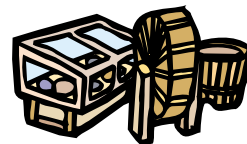
13 産宝様 (奥の宮)



岩に囲まれた宝を産む神として又朝峯の頂上の神として崇拜する宮氏子を頂上より見守っている。祭神は「おおくにぬしの命」といわれる。

21 介良民具館

高知市への合併を機に農具を収集した。昭和46年開館。農耕、養蚕、機織りの民具約330種類、約450点が展示されている。



※令和5年、介良小学校内に移転予定

14 お伊勢様 (神明宮・伊勢大神)

東方を仰ぐ伊勢神宮を遙拝する為に建立した宮である。



22 八坂神社 (保存樹木)

須佐之男命を祭っている。通称、祇園様。神社紋は木瓜紋。木瓜とはボケ。



15 須賀神社

須佐之男命を祭っている。以前は、介良の鬼門といわれる場所に鎮座していた。



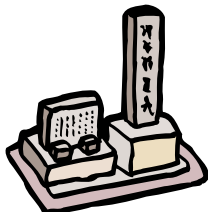
23 王子神社

朝峯神社のお旅所 (神輿の休み所)。通称、権現様。祭神は「あめのおしほみみの命」。



16 澤本楠弥記念碑

自由民権運動家であり北海道開拓者。介良村議員、県議会議員など多くの公職につく。甬喜ヶ峰導水トンネル計画や北海道開拓事業に尽力した。



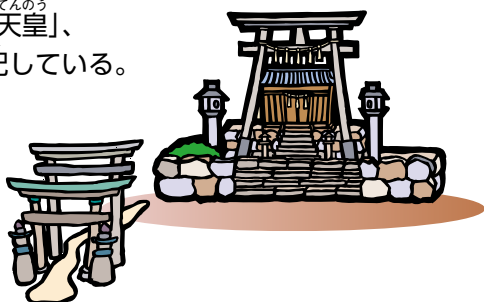
24 高間原古墳群

高天ヶ原山の西部中腹にある古墳群で、古代豪族の遺骸を葬った石室はここではみられないが、円丘の盛土がそのままの姿で見られるのが特徴でもある。山麓の土佐稲荷神社にはこの古墳から出土した遺物を展示している。



17 若宮八幡宮

祭神は、「応神天皇」、山津見神社を合祀している。介良野集落の産土神。



18 介良遺跡

この場所には弥生時代後半から古墳時代前半を中心に集落があったと考えられ、平成8年度から3年間、発掘調査が行われた。主な出土品として、縄文時代の石鏃や弥生時代前期から古墳時代中世までの土器類、石器類、木器類などがある。



● 高天ヶ原山

神が籠もるといって円錐形の神奈備山を形容した山。高天ヶ原と呼ぶその名からしても古代の息吹きが感じられる。この山を取り囲む山の中腹から山麓一体にかけて、古代豪族の古墳がかつて数多くみられたが、この地も開発が進み、これらいくつかの古代の墳丘を消滅してしまった。現在では高間原山と呼ばれてるこの山 (高天ヶ原山) の西部中腹にある平坦な草原状の箇所一帯にしか残っていない。

高間原山はうっかりすると天高ヶ原山と誤認することが多いので注意しよう。



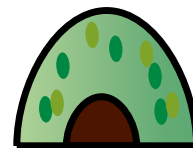
19 薬師堂

西養寺帳に堂床三代の記述がある。文政四年の棟札もあり。



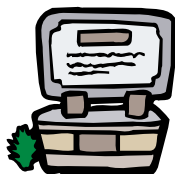
25 戦争遺跡 (たこつぼ、交通壕)

戦争で歩兵が砲弾や銃撃から身を守るために使う穴及び移動するための通路。



20 合併記念碑

昭和47年2月1日の高知市への合併を記念し、造られる。瀬戸内海丸亀沖の青木石を使用しており、工費70万円であった。



「介良野史跡・自然めぐり」平成15年3月発行より
データ提供/カリノ美工

資料

みなものまれよし
源希義公

(源義朝の五男、頼朝と同じ母のもとに生まれた弟＝源希義)

源氏が平治の乱で敗れた後、頼朝は伊豆へ流され、当時3歳だった希義は土佐の庄＝介良に流され、元服し介良冠者・土佐冠者と呼ばれていた。平氏追討の命令により1180年に頼朝が挙兵、諸国の源氏はこれに呼応し、希義(当時25歳)も介良城を発し、夜須七郎行家を頼り夜須に向かう途中、平氏の家臣であった平田氏により現在の南国市鳶が池中学校付近で殺害されたと言われている。

(鍋島高明さん「介良のえらいて」より) 希義の遺体は平家の勢力を恐れる地元民が埋葬せず放置、これを憤った介良の僧琳猷上人が荼毘し介良に埋葬、その後遺髪とともに鎌倉に向かい頼朝に希義の最期を詳しく伝えた。喜んだ頼朝は「亡魂再来」とし、希義追慕のため、墳墓の地に寺院(西養寺のち廃寺)を建立し、毎年68石の供料米を布施したという。

西養寺跡地には希義の墓「無縫塔」が建ち上方に希義神社が鎮座し、現在は史跡としての整備や顕彰活動を「源希義公を顕彰する会」が行っている。

(「介良風土記」より) 希義には美しい妻がおり妊娠しており、鎌倉幕府は草を分けても探せというので夜須七郎行家はついに探し出し、男の児であったのでこれを養育し、吉良八郎希望と称した。この子孫は代々吾川郡春野村吉良城に住んだ。

2022年(R4)大河ドラマ・「鎌倉殿の13人」が放映されたが、大手出版社の雑誌は「高知で死んだ源頼朝のもうひとりの弟、希義。悲劇の御曹司の足跡と840年後も続く“まれよっさん”の祭祀 鎌倉殿の13人満喫りポート番外紀行編」と特集し、「もし、母を同じくする希義が無事に鎌倉にはせ参じていたら頼朝はどう処遇しただろうか。討伐軍の大將か?」「鎌倉殿の13人に登場したら誰が演じただろうか」など様々な思いが頭によぎる。と書いている。



(写真上)

希義神社鳥居奥中央辺りに見える案内板の下に、鎌倉から運ばれた頼朝墓所の土と石が置かれている。

(写真右)

頼朝同腹の弟・希義のものと伝わる介良の無縫塔。

(市有形文化財)

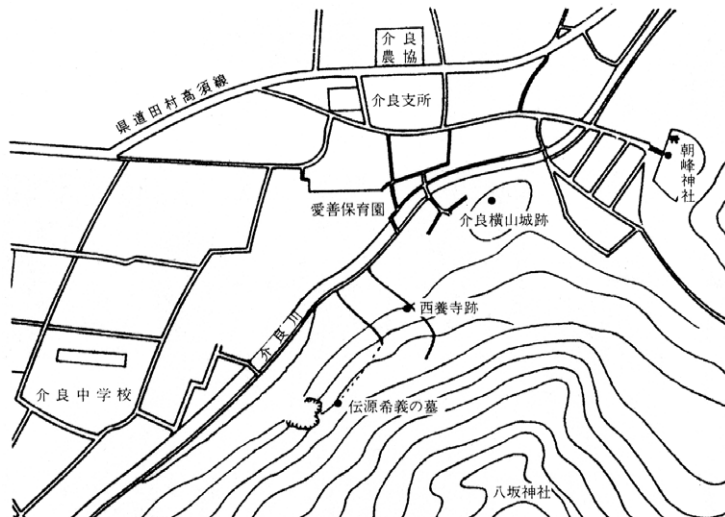




合併20周年記念事業として墓地の横に造られた希義公の碑

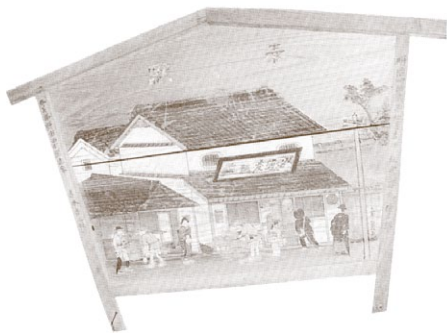
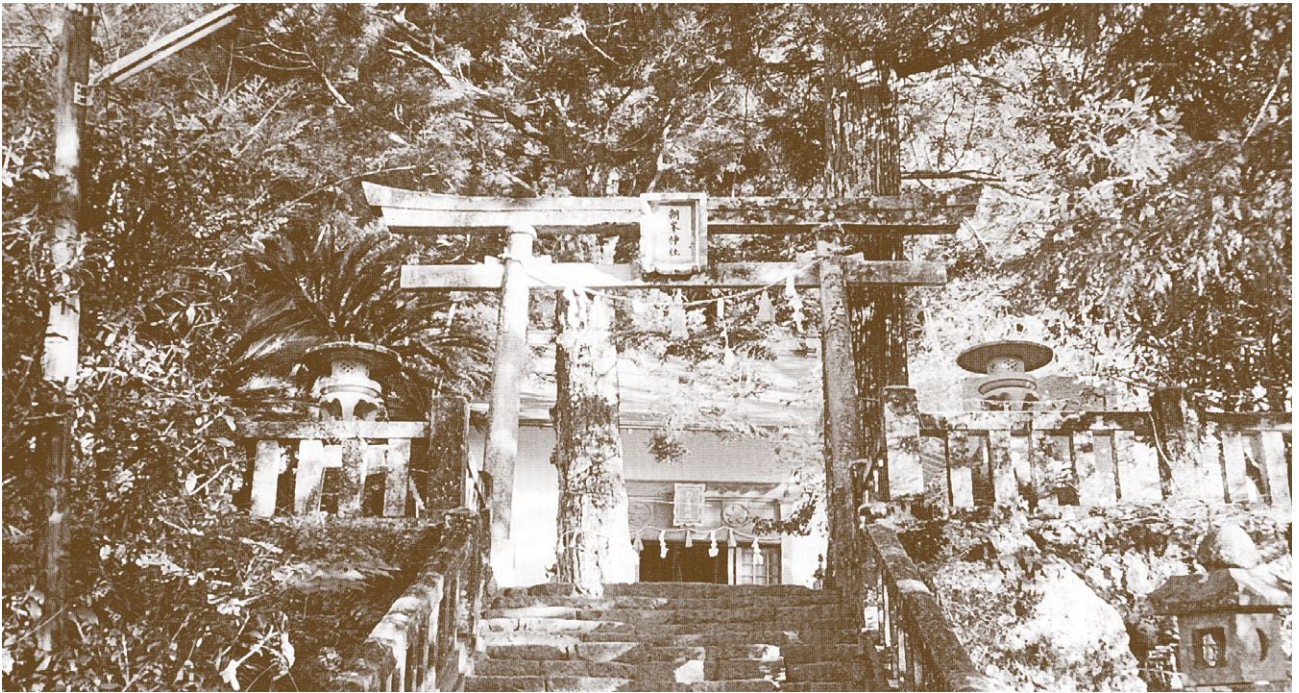


希義神社



西養寺跡

朝峯神社と介良富士



介良、岩屋、白水集落の産土神社で延喜式内社のひとつ。祭神は正殿に木花開耶媛命、相殿に彦火瓊々杵命（夫）、大山祇命（父）を祀る。

この神社は富士山の全国に75山ある中で、土佐小富士といわれ雷電の地にあり、866（貞観8）年に従五位を授与され延喜式名帳（901年）に土佐国21社の一つに撰ばれた。また、五台山吸江寺の守護神としてその境内に祀られている。

日本一の霊峰富士山の本宮浅間神社より勧請された宮であり、その年代はわからないが御祭神は同一の木花開耶媛命である。

中世に当地の土豪横山氏の崇敬を受けた。長宗我部氏の侵攻を受け家臣となって後も横山氏の崇敬がつづいた。山内入国後も土佐藩主山内家の安産祈願所八社の中の一社となり、いまなお、山内家の祈願した額、絵馬が残っている。



●介良山（介良富士）

標高 167m の小柄な山は、ゆるやかな稜線にこりっととがった頂で、「まっこと富士山じゃきに」と地元の人に親しまれている。

御祭神の木花開耶媛命このはなさくやひめのみことは絶世の美女とうたわれ日向の高千穂の峯に降りて、笠紗の岬を散歩中、出会った彦火瓊々杵命ひこほじにぎのみことが一目みて

求婚した。彦火瓊々杵命と結婚し一夜を共にした木花開耶媛命は妊娠し臨月を迎えた事を彦火瓊々杵命に告げると「一夜で妊娠するとは考えられない。きっと国津神の子であろう。」と言われた。木花開耶媛命は「もし、御子が国津神の子供だったら無事には産まれないでしょう。でも、無事に産まれたならば、あなたの子供です。」と言い、戸窓のない八尋殿やひろでんを建て産屋を造り壁土ですき間を塗りこめて、出産の時、産屋に火をつけて燃えさかる中で御子を無事に産んだ。火の中で産まれたので火照命ほでりのみこと（海幸彦）、火須勢理命すぜりのみこと、火遠理命ほおりのみこと（山幸彦）と言われる。（日向朝廷の二世である神武天皇の祖父が火遠理命である。）

そのことを父親の大山祇命おおやまつみのみことが聞き慶び天甜酒あめのたむすけを造り天地の神にお供えして祝った。この酒が稲から作った始まりとして大山祇命さけときを酒解神といい、木花開耶媛命を酒解子神と呼んで酒造りの祖神としている。

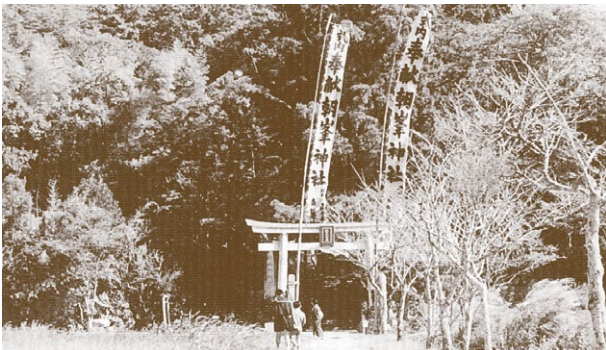
伝説によると、はじめ南国市の瓶岩に祀ってあった。ところがオンビキが来て瓶の神酒をなめてひっくりかえしてしまった。木花開耶媛命は大おこりになってこの地に来たという。神酒の入った瓶は下の谷川にさかさまになって岩になった。そこで瓶岩（亀岩）という。

また万葉集古義の鹿持雅澄も、

「まるのほり この朝峯の皇神に
手向るぬさとちる さくらかも」

と歌を奉納してある。

古来から、安産、子授けの神、酒造りの神として篤い信仰がある。



昭和37年(1962)



平成4年(1992)

資料

●朝峯神社の祭礼

秋の大祭は10月の第3日曜日で、神幸の列に注連飾りしめをした酒瓶さけがめがゆく。これを担ぐ二人の白丁が「オンビキゾー」と囃しながらゆくが、これは「御神酒ぞー」の意とされている。神幸は少年たちの棒打ちもみられるが、注目すべきものに行子ぎょうじと頂女郎いたじょうろうがある。行子は母親に抱かせた幼児または幼童である。神輿みこしが発達するまでは、この行子に神霊をのり移らせ神馬にのせて神幸していた名残である。この行子の世話役が頂女郎である。頂女郎は月のものなくなった女性になる。神幸が旅所に着くと、頂女郎は直ぐに化粧を洗い落とす。化粧が神懸かりの手段であった古代の信仰を秘めたものである。

また旅所で行子たちに振る舞われる田芋、枝豆、吸物膳も古式として注目される。1912（大正元）年から旅所は長崎鎮座の王子神社（彦火瓊々杵命ひこほににぎのみことの父）となったが、古くは頭屋と呼ぶ特定の家から神幸が出発し、それに伴う厳格な祭式作法が行われていた。



●棒打ち

高知市介良の朝峯神社の秋祭りの御神幸（オナバレ）は、安土桃山時代から行われており、高知市の無形民俗文化財にも指定されている秋の行事。

その中で行われる「棒打ち」は、赤いたすきを掛けた「追い棒」と青いたすきを掛けた「逃げ棒」の二人一組で棒を打ち合わせ、悪魔悪霊を祓い道筋を祓い清めるという役割をもっている。

「棒打ちが通らないうちは、神輿も動かせない」という信仰としての「棒打ち」に、将軍徳川家光の江戸時代寛永年間（1630年頃）に岩谷東組（いわやひがしぐみ 現：東部地区町内会）の武術心得の者が武術を加味し、現在の形となったと言われている。

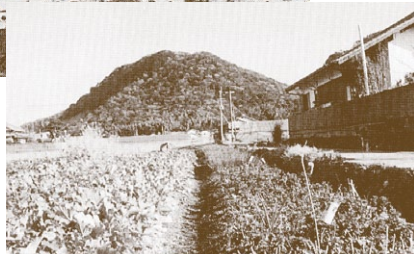
以降享保、天保、明治と天災の度、地域の連携を深め、無病息災を願い、奉納され、現在に至るまで400年以上大切に継承されてきた。

10月になると秋祭りに向けて「棒打ち」の練習が始まる。現在では秋祭りは、10月の第3日曜日になっているが、以前は10月20日に開催されていた。令和4年頃はコロナ禍で秋祭りの中止が続いているが、伝統芸能は地域の世代間を繋ぐものであり、その時代や社会情勢によっていろいろな考え方があって変化を求められることもあるが、その本質は変えずに大切に守っていききたい。



●二期作の介良

「^{わめいしょうぐんこう}和名抄郡郷考」には土佐というのは、「^{とさ}速稲の意味で、稲の熟するのが早い。」というところから土佐の国の名となったと言われている。土佐では、4月頃から田植えをして、7月から8月にかけて取り入れをする。「^{えまわり}江廻り」という浦戸湾に臨んだ地域は特に早い。その代表が介良である。特に、白水、岩屋方面は土佐の二期作発祥地である。1748～1750（寛延）年の頃、岩屋ではじめて植えたと言われる。



●介良のイチゴ

五台山の東孕の蒲原忠男さんが浜口雄幸の渡米と同時にアメリカに行き、アメリカイチゴ（品種ビクトリヤ）を持ち帰り、五台山には早くから普及していたが、蒲原さんと親戚に当たる丁面の鍋島社敬さんが苗をもらってきて、岩屋苺の産地が出来た。宮ノ谷では中島輝水さんが社敬さんに苗をもらって植えていたそうだが、本格的な栽培は昭和7年頃、中島弥久次さんと隣の中島栄喜さんが、長江の親戚から多量の苗をもらって、南面、むく谷に一反ぐらい作付けしたのが始まりで、これが宮ノ谷、北島、下組、岩藪等に普及していった介良苺の産地となった。戦時中は休止したが、戦後復活して、特に農協が力を入れ、農協まで個人が出荷すれば、農協が一括して共同出荷するようになり、より早く出荷出来るようになった。また、先進地の静岡を視察に行き、ハウス苺の研究をして、12月、1月に出荷出来るようになり、介良苺の名声をあげた。高知県下で、ハウス苺のパイオニアは介良である。



介良いちごを使った大人気のジャム

資料

介良は人材の宝庫

● 「介良のえらいて」(介良白水出身・鍋島高明著) より

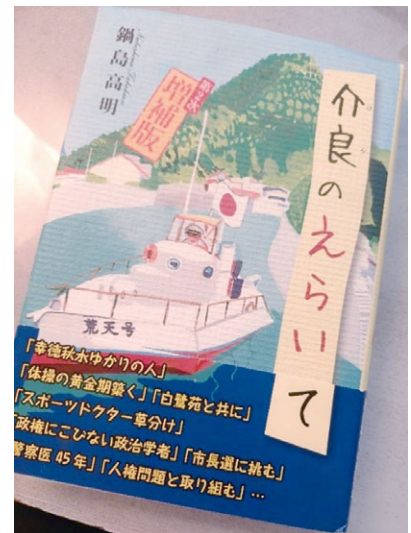
(巻頭「介良自慢」より)

昭和47年1月31日、高知県長岡郡介良村の閉村式が行われ、102年の歴史は終わった。翌2月1日から高知市介良として新しい一歩を踏み出した。(中略)

閉村式で溝渕増已知事は介良のことをこう持ち上げた。

「介良村は遺跡と教育の村で名高いところで、先に高間原から高知県最初の先土器時代の石器である細石核が発見されて、高知県史の始まりを飾った歴史の村と申すことができます。また水稻二期作の発祥地として、ことにこの小さな村から中谷、長野両代議士など数々の人材を生んだところです」

また坂本昭高知市長は「介良地区は天津とともに上古時代の古墳群と伝えられる高間原丘陵や源希義の墓、横山城址など数々の史跡が残されています。…素晴らしい自然と伝統を高知市の貴重な財産として引き続き護り保存していきたい」と述べた。



「介良のえらいて」
(製作著作五台山書房
発行(株)市場経済研究所)

郷土史家で「介良風土記」の著者である橋詰延寿は「介良村には人材が多い。政治家がある。軍人がある。思想家があり、科学者があり、芸術家があり、外交官があり、教育者がある。実に多士済々である。」と書いている。橋詰先生は書きもらしたが経済人、実業家も多彩である。実はこの分野に一番人材が多いように思えるくらいだ。

※著者の出身地である高知県長岡郡介良(けら)村(現在・高知市介良)にまつわる人物録。タイトルは初め「介良のえらもん」としましたが「褒め言葉ではない」「介良では使わない」など異論が相次ぎました。「人物録」では堅すぎる。そこで「えらいて」となりました。「えらい」には「偉い」という意味と「辛い」「苦しい」という意味もある。「辛苦をなめた偉い手たち」といった意味で「えらいて」に落ち着いた。

介良出身、介良にゆかりのある「えらいて」100名余りが紹介されている。

(鍋島高明さん略歴 1936年(昭和11年)生まれ 土佐高校、早大政経卒、日本経済新聞社入社。元土佐史談会関東支部長 著作に「鬼才・土佐・啄木…」「高知経済人列伝」「大番頭 金子直吉」「土佐ジャーナリスト列伝」など多数 2021年(令和3年)没)



2018年12月介良中PTA
人権研修部講演会
「介良地区の歴史を知ろう」では講師を
務めていただいた。
(写真中央が鍋島高明さん)

介良のご当地ソング 小学生が作った！「介良いちごのうた」と「しらさぎ米音頭」

けらいちごのうた

作詞 片岡忠三 池田多鶴 岡田直樹
作曲 池田多鶴 岡田直樹

けら いちご けら いちご
あまくておいしい けらいちご

春になると介良のまちは
いちごのあまいかおりがあふれてる
お日さまの光 たくさんあびて
赤くあまくおいしくなっていく

けら いちご けら いちご
まっかで ピカピカ けらいちご

いちごジャムを 作るときは
おさとう入れてぐつぐつ にこみます
しあげにレモン ちょっとしぼったら
おいしいいちごジャムの できあがり
けら いちご けら いちご
給食のパンに たっぷりつけて
みんなでおいしく けらいちご



白鷺米音頭

作詞・作曲 岡本碧唯
編曲 岡田直樹



おこめおんどだ ドドンガドン
しらさぎおんどだ ドドンガドン

こうちのけらのおこめはね いちねんににどとれるんだ
しらさぎがまうたんぼでは たくさんのいねがやどります

アソレ！ アヨイショ！

まいにちのようにたべるおこめ
せいさんしゃさんがあせをながしながら
ねがいはたったひとつだけ みんなにおいしいといってもらいたい
ちいきのうかがそだてた おいしいおこめをたべよう
たべればところがほっこり みんなもえがおになる

アソレ！ アヨイショ！

こうちのけらのしらさぎまい もみまきからてまひまかけて
しろかきをしたたんぼにはたくさんのなえがうえられます

アソレ！ アヨイショ！

おいしいおこめをつくるために
てきとなりょうにみずをちょうせつし
あめかぜまけずにほはそだつ
あきにはこがねいろにいねはかがやく
おおむかしからたべてきた おいしいおこめをたべよう
たべればところがほっこり みんなもえがおになれる

アソレ！アヨイショ！

その他にも、「介良めぐり」、「介良史跡数え唄」、「介良の華」、「介良歴史いろは」、「観音踊り」など多数。これほどご当地ソングのある地域はめずらしく、地元愛＝“介良愛”あふれる地域ということではないだろうか。

介良の未来

合併 50 周年を迎えた 介良地区の保育園 小・中学校

介良の未

高知市との合併 50 周年
を迎えた 2022 (令和 4)
年度、介良・介良潮見台地
区の保育園・小学校・中学校。

今後の介良の未来を創る
子どもたちは、どんなおと
なになってくれるだろう。



来を創る子どもたち

介良小学校 (児童378名)



介良潮見台小学校 (児童219名)



介良中学校 (生徒258名)



介良の未来

夢 希望 未来へ!!

介良潮見台小学校と介良小学校の6年生が、将来の夢や希望を寄せ書きにしました。自分を大切に!! 仲間を大切に!! そして、地域を愛する気持ちを大切にしながら夢に向かって前進してください。



☆参考にした文献・資料（順不同）

- ①「のびゆく介良」 介良高知市合併20周年記念事業実行委員会
- ②「介良のえらいて」 鍋島高明 著
- ③「昭和51年を歩く・高知市東部」 武吉孝夫
- ④「よさこい高知国体民泊思い出集」 よさこい高知国体高知市実行委員会
- ⑤「遺跡が語る高知市の歩み」 高知市史考古編
- ⑥「高知県の地名」（日本歴史地名大系40） 平凡社

☆資料・写真を提供いただいた方々（順不同）

高知新聞社 カリノ美工 鍋島 峰雄 竹村 順子 武市 満子 入交 征章
 潮見台自治会 下組自治会 鍋島 邦夫 竹村 誓

☆事業にご協力いただいた方（順不同）

地域コミュニティ推進課 吉永 彩葉 横田 芽生
 地域活動応援隊 井上 恭明 木造 純 澤本 将樹 中村 倫子
 森木 美樹
 介良小校区交通安全会議 坂本 邦子 都築 真弓 戸田 らん子 谷脇 博
 山中 啓弥

☆介良・高知市合併50周年記念事業実行委員会（50音順）

会 長 入交 征章
 副会長 川北 隆男 楠本 美津子 中尾 昭一 中島 正根
 中野 博文 西村 昭子 野中 日出夫 藤川 聡詩
 山本 博愛
 会 計 安藝 浩一
 会計監査 竹内 直志 竹村 次郎
 特別顧問 中谷 元
 顧 問 桑名 龍吾 細木 良
 事務局 仲本 英生 福井 清 岩井 朗 澤本 彰仁
 竹村 盡直 藤田 清美 前田 修一 横山 成郎
 吉川 清美 吉田 知子 吉本 良奈

☆部会員（◎部会長 ○副部会長）

<p>【総務部】</p> <p>◎中島 正根</p> <p>○野中 日出夫</p>	<p>【式典部会】</p> <p>◎山本 博愛</p> <p>○西村 昭子</p> <p>川添 杏美</p> <p>田中 純子</p> <p>田内 純子</p> <p>吉村 貴世</p>	<p>【広報部会】</p> <p>◎中尾 昭一</p> <p>○楠本 美津子</p> <p>植田 陽子</p> <p>大野 聡</p> <p>佐藤 誠</p>	<p>【記念誌部会】</p> <p>◎中野 博文</p> <p>○川北 隆男</p> <p>○藤川 聡詩</p> <p>細木 良</p> <p>鍋島 康祐</p> <p>高橋 祐</p> <p>吉永 佳代</p> <p>明神 望</p> <p>山下 早苗</p> <p>和田 春美</p> <p>横田 啓恵</p>
---	---	---	---

協賛いただいた方々（順不同）

介良地区民生委員児童委員協議会互助会 介良地区社会福祉協議会 介良地区連携協議会
日本赤十字社高知県支部介良分区 介良地区自治会公民館連絡協議会
介良まちづくりの会 介良ふれあいセンター運営委員会 高知市老人クラブ介良ブロック
高知市消防団介良分団 高知市消防団介良分団後援会 愛善保育園 中野保育園 介良西部保育園
介良中学校PTA 介良小学校PTA 介良潮見台小学校PCTA 介良小学校区交通安全会議
介良潮見台小学校区交通安全会議 介良体育会 介良潮見台体育会 老人クラブ第三寿会
介良小学校区青少年育成協議会 介良潮見台小学校区青少年育成協議会

介良野自治会	白水町内会	宮の前自治会	東部自治会	境丸3号町内会
長崎団地町内会	大面町内会	岩藪町内会	本江田西町内会	鎌島団地町内会
津の宮自治会	下組公民館	西部自治会	本江田町内会	本江田いちご町内会
西の沢自治会	県住自治会	宮城公民館	南長崎自治会	潮見台自治会
丁面自治会	境丸西町内会			

中島 正根	林 充	島田 真一	林 綾子	岩井 朗	瀬尾 せい
山野内 彰子	岡崎 芳子	浜田 好子	竹内 香代	田中 登志	



(2022年 介良中学校1年 大石優花さん)

のびゆく介良2

編 集 介良・高知市合併50周年
記念事業実行委員会記念誌部会
発行日 2023(令和5)年2月1日
発 行 介良・高知市合併50周年
記念事業実行委員会
印 刷 川北印刷株式会社

